

使用中に正常に動作しなくなった時は、

まず本書42～44ページの「故障かな?と思ったら」を参考にしてチェックして下さい。
「処置」を行っても改善が見られない時は、お買い上げ店、または当社ユーザーサービス係にお問い合わせ下さい。

保証をお受けになる場合、

お買い上げ店に不具合内容を具体的に提示の上、リモコン、エンジンスターター本体、アンテナUNIT、警報機本体をセットにして、車検証のコピー、保証書と共にご依頼下さい。
なお、保証範囲につきましては、保証書裏面に記載の保証規定によります。

保証対象外の修理について、

保証期間を過ぎた場合や、使用上の不注意による故障等、保証の対象にならない場合の修理については、有償となります。保証書裏面に記載の保証規定をご覧ください。

お取り付け時に、設定内容をご記入下さい。

専用ハーネス	:	()
電圧センサー	:	ノーマル	ドアスイッチ
スタンバイ時間	:	ノーマル	30秒
L端子配線	:	無	有
グロー設定	:	無	有
キー学習設定	:	無	有
アイドリング時間	:	20分	10分 30分
ターボタイマー設定	:	無	有

※車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。

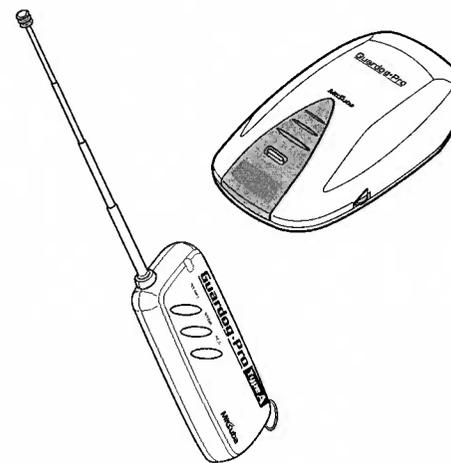
Mitsuba

盗難警報機+リモコンエンジンスターター

Guardog Pro Type A

CAR SECURITY ALARM SYSTEM + REMOTE ENGINE STARTER WITH ANSWER-BACK SYSTEM.
ガードッグ・プロ

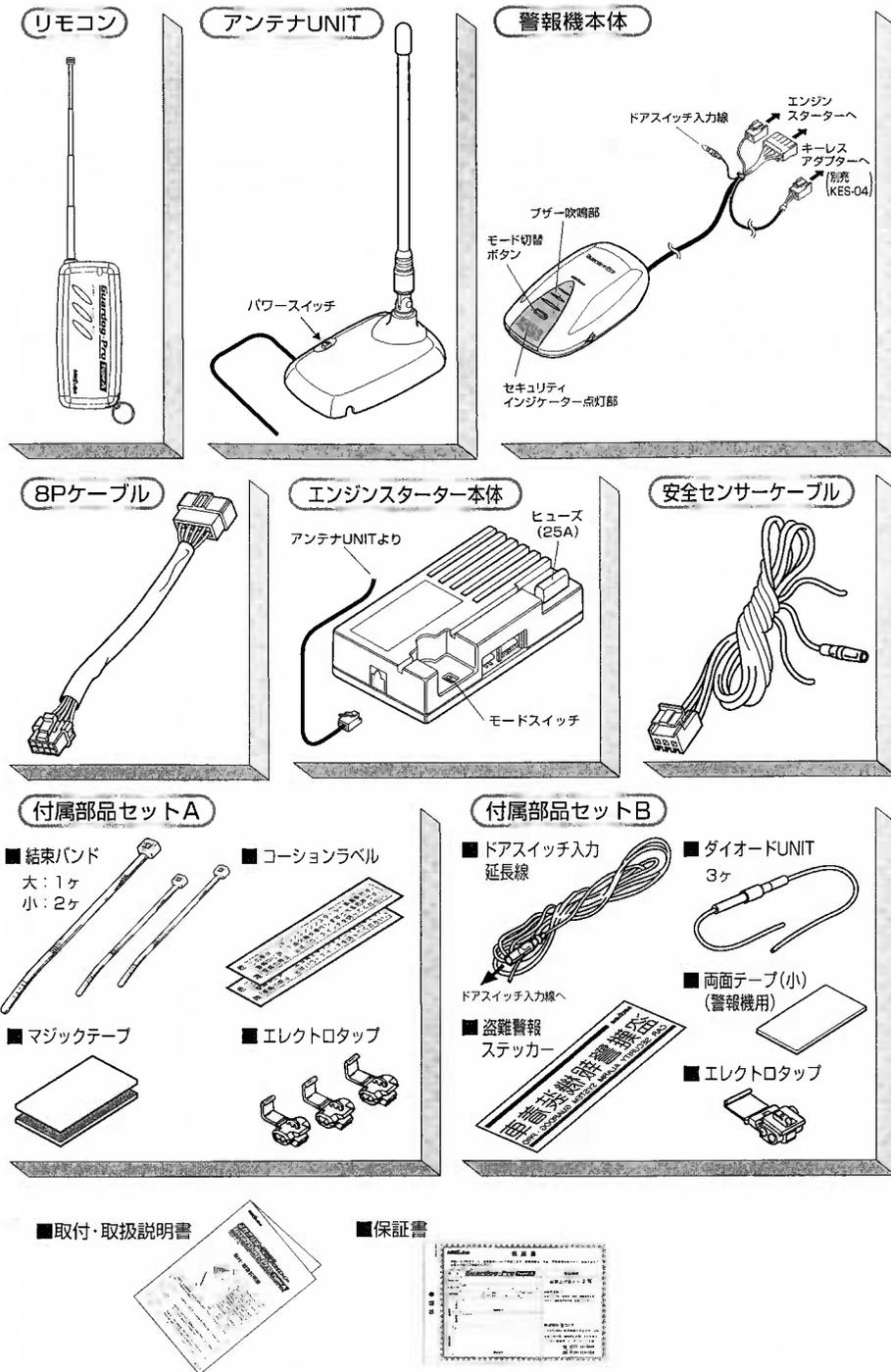
取付・取扱説明書



- ☆このたびは、ガードッグ・プロタイプAをお買い上げ頂きましてありがとうございます。
- ☆ご使用になる前に、本冊子を必ずお読み頂き、正しくご使用下さい。
- ☆お読みになった後も、本冊子は必要な時ご利用出来るように大切に保管して下さい。
- ☆本製品を譲渡される場合や別の車に取り付け直す場合も、本冊子を必ず製品に付帯させ、お使いになる方がいつでも見られる様にして下さい。
- ☆本製品は日本国内でのみご使用出来ます。

この取付・取扱説明書では安全上重要な項目に下記のマークを表示しています。各マークの意味は次の通りです。

- ⚠ 危険** …… 取扱を誤った場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを意味します。
- ⚠ 警告** …… 取扱を誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを意味します。また、法律に違反することを意味します。
- ⚠ 注意** …… 取扱を誤った場合、傷害を負う危険が想定されることを意味します。また、物的損害が発生する恐れがあることを意味します。



はじめに	■パッケージ内容	2
	■目次	3
取り付け作業	■取り付け可能な車の条件	4
	■安全に使用するための注意	5~7
	□安全上の注意	(5~6)
	□使用上の注意	(7)
	■取り付け前の準備	8
	■取り付け概念図	8
	■専用ハーネス・アンテナUNIT・エンジンスターター本体の接続	9
	■警報機本体の接続	10
	■オートマチック車の登録	11
	■エンジンスターターの動作確認	12
	□エラー発生時のQ&A	(12)
	■うまく動作しない場合の対応(エンジンスターター)	13~16
	□L端子検出方式への変更	(13)
	□L端子誤配線チェック機能	(14)
	□始動パターンの切替	(14)
□キー始動学習機能の設定	(15)	
□フットブレーキ検出方式への変更	(16)	
■警報機の動作確認	17~19	
□電圧バルスセンサーの動作確認	(17)	
□エラー発生時のQ&A	(17)	
□振動センサーの動作確認	(18)	
□エラー発生時のQ&A	(18)	
□警報報知機能の設定	(19)	
□警報報知機能の動作確認	(19)	
□エラー発生時のQ&A	(19)	
■うまく動作しない場合の対応(警報機)	20~24	
□電圧バルスセンサーのON/OFF切替方法	(20~21)	
□スタンバイモード時間の切替方法	(21~22)	
□ドアスイッチ入力センサーの追加設定	(23~24)	
■仕上げ	24~25	
□アンテナUNITの取り付け	(24)	
□未使用端子の処理、エンジンスターター本体の取り付け	(25)	
□コーションラベルの貼り付け	(25)	
操作方法	■警報機をセットする	26
	■ターボタイマー作動中に警報機をセットする	27
	■警報機をリセットする	28
	■リモコンを使用せずに警報機をリセットする	28
	■リモコンでエンジン始動する	29
	■リモコンでエンジン停止する	30
	■リモコンでエンジンの状態を確認する(アンサーバック)	30
	□エンジン始動の確認	(30)
	□エンジン停止の確認	(30)
	各機能について	■警報報知機能について
■警報報知信号の受信可能距離について		31
■誤動作軽減機能について		32
■半ドア警告機能について		32
■アクティブセンサー判別機能について		32
■警報履歴確認機能について		32
■アイドリング時間の設定		33
■ターボタイマー機能について		34~35
□ターボタイマーの設定/解除方法		(34)
□ターボタイマーの使用法		(35)
■スリープ機能について	35	
■本機の電源を切る時は	35	
オプション	■運転席ドアスイッチ配線を行う場合(エンジンスターター安全機能)	36~37
	□警報機にてドアスイッチ入力センサーを設定していない場合の配線方法	(36)
	□警報機にてドアスイッチ入力センサーを設定している場合の配線方法	(37)
	■ボンネットスイッチ(別売)を取り付ける場合(エンジンスターター安全機能)	38
	■警報機にてドアスイッチ入力センサーを設定していない場合の配線方法	38~39
	□警報機にてドアスイッチ入力センサーを設定している場合の配線方法	(39)
	■オプション品(別売)のご案内	40
■キーレスアダプター(別売)の接続について	40	
その他	■メンテナンス	41
	□電池の交換方法	(41)
	■故障かな?と思ったら	42~44
	■主な動作仕様一覧	45~46
	□リモコンについて	(45)
	□エンジンスターター本体について	(46)
	□警報機について	(46)
■仕様	47	
■アフターサービスについて	48	

●「リモコンエンジンスターター適応車種一覧表」に記載されている車種であること。

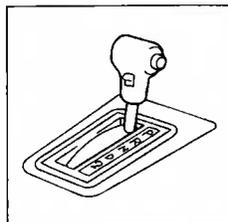
他のエンジンスターター、もしくはターボタイマー用ハーネスを流用・加工しての取り付けは絶対にしないで下さい。「リモコンエンジンスターター適応車種一覧表」をよくご覧になり、車に適合した当社製専用ハーネスをご使用下さい。

●スターター作動時間が2.5秒以内でエンジンが始動出来る車である事。

適応車種は、以下の条件を考慮して選定しております。

○オートマチック車であること。

エンジンスターター本体のオートマチック車判別機能により、マニュアル車への取り付けは出来ません。

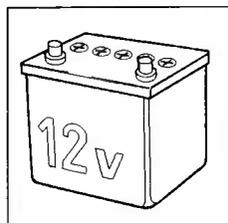


○国産車であること。

外国車への取り付けは出来ません。

○12V車であること。

24V車への取り付けは出来ません。



○電子燃料噴射装置搭載車であること。

エンジン始動時にアクセル操作やチョークレバー操作を必要とする車、電子制御キャブレター搭載車への取り付けは出来ません。イグニッションキーのみでエンジンを始動する事が出来る車に取り付けが可能です。

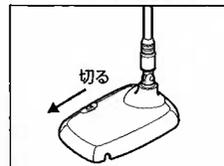


○イモビライザーを搭載していない車であること。

イモビライザー搭載車では、本システムでエンジン始動が出来ません。

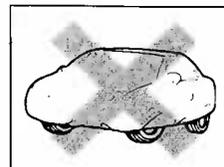
安全上の注意

危険

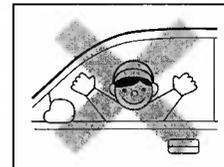


下記の場合には、パワースイッチを切って下さい。事故の恐れがあります。

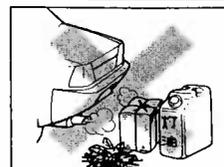
- 整備、車検等で車を預ける場合。
- 整備、車検等を行う場合。
- 当製品の取り扱い方を知らない方が運転する場合。



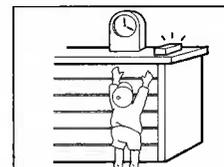
車にボディカバー等を掛けたままでリモコンでエンジン始動しないで下さい。火災の恐れがあります。



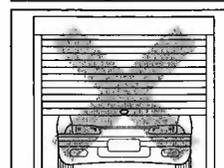
人(特にお子様)やペットが車内にいる時は、絶対にエンジンを始動したり、警報機をセットしたりしないで下さい。お子様による車両の操作やペットの思わぬ動きが重大事故につながる恐れがあります。



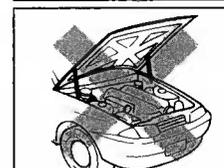
リモコンでエンジンを始動する時は、車の近くに燃えやすい物がないことを確認して下さい。火災の恐れがあります。



リモコンは、お子様の手の届く所には、置かないで下さい。事故の恐れがあります。



密閉されたガレージ内ではリモコンでエンジン始動しないで下さい。排気ガスが充満して危険です。

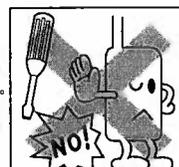


ボンネットを開ける時はアンテナUNITのパワースイッチを切って下さい。誤ってリモコンが操作されると事故の恐れがあります。安全のため別売のボンネットスイッチの取り付けをお勧めします。

警告



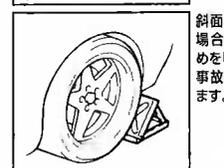
公道上では使用しないで下さい。公道上でのエンジンスターターの使用は違法となります。また、警報機は外乱振動により誤動作する恐れがあります。



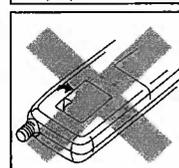
この製品は特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解・改造することは法律で禁じられていますので絶対にしないで下さい。



警報機は大音量のため耳をそばで作動させたり、長時間試験はしないで下さい。耳に障害が残る恐れがあります。



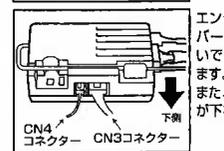
斜面で使用される場合は、必ず輪止めをして下さい。事故の恐れがあります。



リモコン及びアンテナUNIT裏面のラベルをはがしたり、ラベルの無いものを使用することは法律で禁じられていますので絶対にしないで下さい。

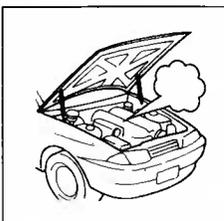


警報機をセットしたまま運転しないで下さい。重大な事故の原因になります。

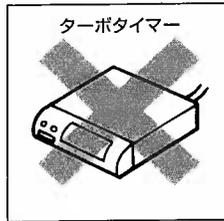


エンジンスターター本体のコネクター部に、ドライバ等金属を接触させたり、異物を入れたりしないで下さい。内部でショートし発火する恐れがあります。また、取り付けの際は、CN3、CN4のコネクター面が下を向くように設置して下さい。

注意

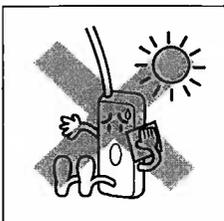


暖気運転を行った直後に運行前点検を行うと火傷をする恐れがあります。ご注意ください。



ターボタイマー

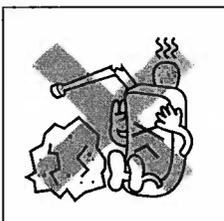
他のエンジンスターターやターボタイマーとの併用は、絶対しないで下さい。故障や誤動作の原因となります。



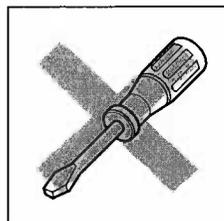
リモコンは、高温になる場所には放置しないで下さい。変形、変色や故障の原因となります。



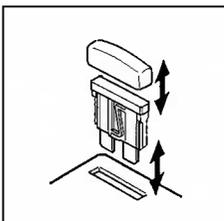
本製品に水がかからないようにして下さい。リモコンは衣類のポケット等に入れたまま、洗濯しないように充分ご注意ください。故障の原因となります。



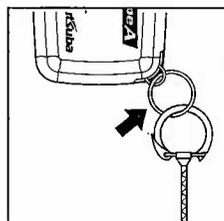
リモコンは落としたり、硬い物にぶつけたりしないで下さい。また、アンテナは無理な力で引き伸ばしたり、収納したりしないで下さい。故障の原因となります。



本製品の内部に異物を入れないで下さい。又、分解、改造は絶対しないで下さい。故障の原因となります。



ヒューズ切れの直後はヒューズ部が高温となりますので、交換には注意して下さい。又、交換作業後はヒューズキャップを必ずつけて下さい。尚、一部車種については動作中、ヒューズ周辺の温度が上がる場合がありますのでご注意ください。



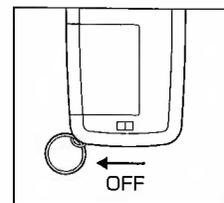
リモコンにキーホルダー等を取り付ける場合は、必ず付属のホルダーリングに取り付けて下さい。破損の原因となります。



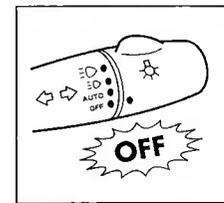
リモコンが汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよくしぼってふき、乾いた布でもう一度ふいて下さい。ベンジン、シンナー等は絶対に使用しないで下さい。変形、変色や事故の原因となります。

使用上の注意

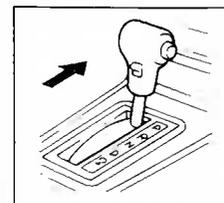
- 本製品は車両に対するいたずらや盗難に対して警告、警報を発するものであり盗難、車上ねらい等を防止するものではありません。本製品を取り付けたお車が万一盗難事故やいたずら等の被害に遭われても、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。また、故障・誤動作等により警報機が使用出来なかったことによる付随的保証につきましても同様、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。
- 本製品は無線機等、強い電波やノイズが発生する機器のそばに設置した場合、誤動作あるいはリモコン操作が不可能となる可能性があります。
- 下記のような環境下で警報機を使用した場合は警報を発することがあります。
 1. 強風、豪雨、雷雨、台風等の気象条件の場合。
 2. 地震が起きた場合。
 3. 線路付近、幹線道路沿い、工事現場付近、飛行場付近等、振動の発生する場所。
- 警報機は、設置場所によって振動センサーの感度が大きく変わります。必ず動作確認をした上で取り付け位置を決定して下さい。また、動作確認の際はガラスやボディ等が破損しないように十分注意して下さい。万一破損等が発生しても、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。



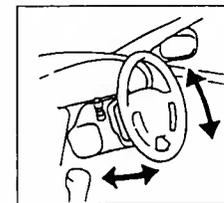
リモコン裏面にある監視モードスイッチはパワースイッチではありません。警報報知機能を使用するときに「ON」にして下さい。また、「ON」のときは電池を著しく消耗しますので、警報報知機能を使用しないときは「OFF」にしておいて下さい。



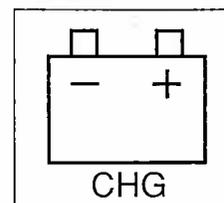
オートライト装着車に取り付けの場合、オート状態のまま夜間にリモコンにてエンジンを始動すると、車のライトが点灯してしまい、リモコン停止や自動停止後に消灯しません。そのためバッテリー上がりの原因となりますので、ライトスイッチはOFFの状態でご使用下さい。



シフトレバーは必ずPレンジに入れて使用して下さい。Nレンジでは使用しないで下さい。パーキングブレーキは、必ずかけて下さい。



オートチルト及びマイコンプリセットステアリング装着車にお取り付けの場合、リモコンでのアイドリング中に、車のキーを差し込んでステアリング機能は働かせません。エンジンを止めて、再度キーを使ってエンジン始動を行って下さい。

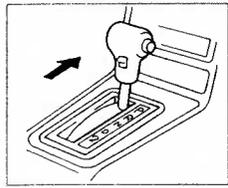


キーでエンジンを始動した後に、充電警告灯が消えない車は、エンジンスターターを使用せずに車の点検整備をして下さい。

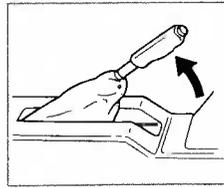
ドアスイッチ配線を行う事で、ドアを開けると同時にエンジンを停止させる事も出来ます。詳しくは36ページを参照して下さい。

- リモコンドアロックあるいは、キーレスエントリー装着車では、アイドリング中(本機リモコンでのアイドリング中も含む)リモコンの扱い方等によって変化します。一般的に建物内や周囲に鉄筋コンクリートの建築物があったり、高圧送電線や大出力の無線等のノイズ発生源があったりすると到達距離は短くなります。また、送信時にアンテナを収納したりリモコンを手等で覆うと短くなりますので、ご注意ください。
- リモコンを操作する時はアンテナを十分に伸ばして下さい。電波到達距離は、周囲の環境、アンテナUNITの設置状態、リモコンの扱い方等によって変化します。一般的に建物内や周囲に鉄筋コンクリートの建築物があったり、高圧送電線や大出力の無線等のノイズ発生源があったりすると到達距離は短くなります。また、送信時にアンテナを収納したりリモコンを手等で覆うと短くなりますので、ご注意ください。
- 寒冷地では、エンジンがかかりにくいことがあります。キー操作のみで2.5秒以内にエンジンが始動するように車を整備して下さい。
- 警報機を動作させたまま長時間放置させないで下さい。バッテリー上がりの原因になります。
- キーによるアイドリング中は、一切のリモコン操作は出来ません。
- 環境保護のため必要以上のアイドリングは行わないで下さい。

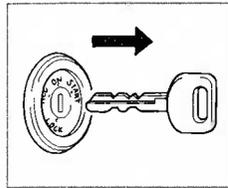
取り付け前の準備



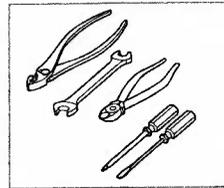
●シフトレバーは、必ずパーキングレンジに入れて下さい。



●パーキングブレーキは確実にかけて下さい。

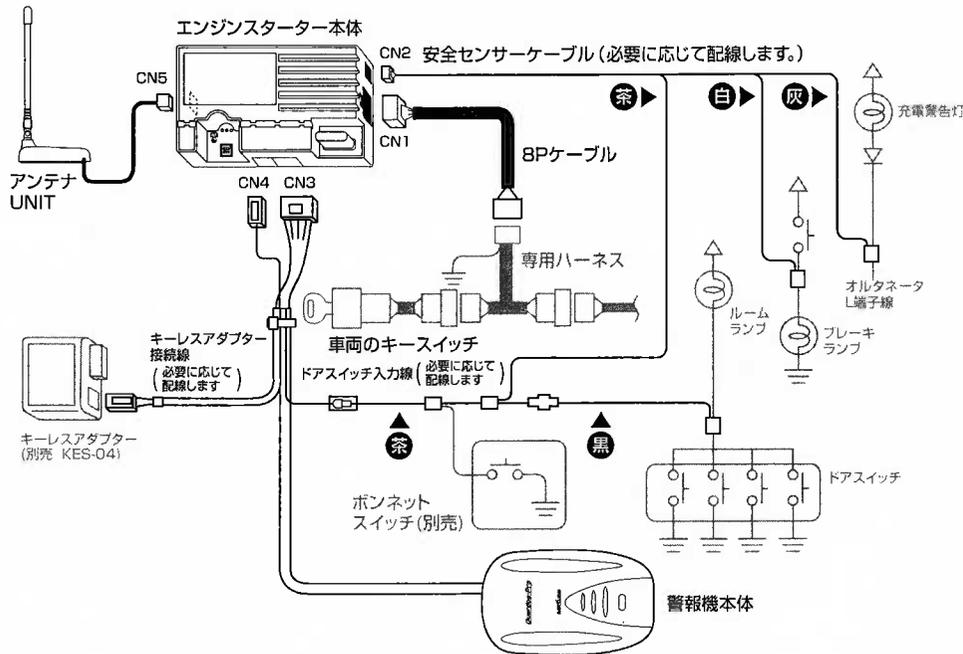


●車のキーは必ず抜いて下さい。



●取り付け工具について。
プラスドライバー・プライヤー・ニッパ・スパナ・テスター等。工具は本製品には同梱されていないので、別途ご用意下さい。

取り付け概念図



専用ハーネス・アンテナUNIT・エンジン starter 本体の接続

ステップ 1

キースイッチの配線カプラーを探します。

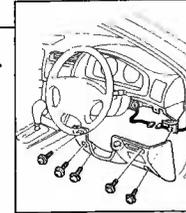
配線カプラーの位置は大別すると次のようになります。詳しくは「リモコンエンジン starter 適応車種一覧表」をご参照下さい。



キースイッチの配線カプラーは基本的に車種別専用ハーネスのカプラーと同形状なので、それを目安にして下さい。

■タイプ1

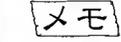
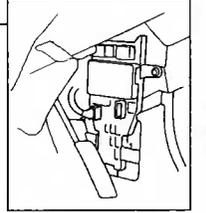
●アンダーカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。



アンダーカバーを外す際、車種によってはスピーカーカバー内や、コインボックス等に隠しネジが付いている場合があります。

■タイプ3

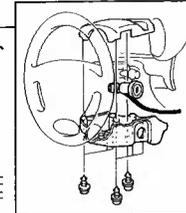
●ヒューズボックスやジャンクションブロックに直接、接続されているタイプ。



ホンダ車の場合、アクセルペダル横のヒューズボックス内に接続されている場合もあります。

■タイプ2

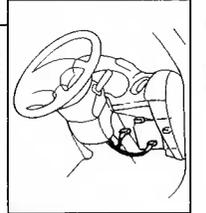
●ステアリングコラムカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。



ステアリングコラムカバーを外す際、車種によってはステアリングを90度位回さないといけない場合もあります。

■タイプ4

●配線カプラーが2箇所に分かれているタイプ。それぞれの位置が離れているものもあります。



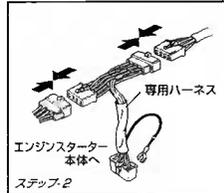
ステップ 2

専用ハーネスを接続します。

発見したキースイッチの配線カプラーを一旦外します。車種別専用ハーネスを、外したカプラーの間に割り込ませます。



カプラーの接続は振動で外れないように、最後まで確実に差し込んで下さい。エンジン starter 本体がうまく作動しない事があります。



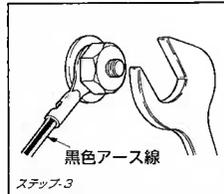
ステップ 3

アース線を接続します。

車種別専用ハーネスから出ている、黒色アース線を車体の金属部分に確実に締め付けます。これにより間接的にバッテリーのマイナスに接続されます。接続箇所を充分確認の上、適正な場所に接続して下さい。



塗装されている金属部分や、車の振動等で緩んでしまう場所に取り付けしないで下さい。動作が不安定となり、オートマチック車の登録情報が消去されたり、エンジンが始動しない等の不具合が生じます。



ステップ 4

エンジン starter 本体と専用ハーネスを接続します。

エンジン starter 本体のコネクター部 (CN1) と専用ハーネス先端コネクター部を8Pケーブルで接続します。

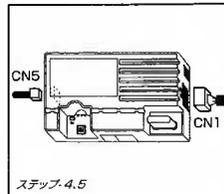
ステップ 5

エンジン starter 本体とアンテナ UNIT を接続します。

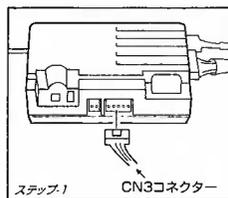
エンジン starter 本体のコネクター部 (CN5) とアンテナ UNIT から出ているケーブルを接続します。



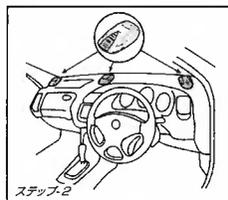
ケーブル接続は振動で外れないように、最後まで確実に差し込んで下さい。エンジン starter 本体がうまく作動しない事があります。



ステップ1 警報機本体から出ているハーネスの5Pコネクタをエンジンスターター本体のコネクタ部 (CN3) へ接続します。



ステップ2 警報機本体を設置します。
警報機本体をフロントのダッシュボード上等に設置します。警報機本体の固定は、取り付け面の汚れや油分をよく落とし、付属の両面テープで確実に固定して下さい。



警告 エアバッグ装着車は、エアバッグカバー部には警報機本体を設置しないで下さい。エアバッグ作動時にケガをする恐れがあります。



- ・設置する場所は、運転に差し支えない場所を選んで下さい。
- ・警報機本体がしっかりと固定されていないと振動が伝わりにくくなるため、振動センサーが十分に感知しなくなる恐れがあります。また、カーペット・モケット等やわらかい部分への設置は振動センサーの感度を悪くさせますのでお止め下さい。
- ・無線機等、強い電波やノイズを発生する機器と同時使用した場合、誤動作する恐れがあります。
- ・警報機本体は防水構造になっていないため、水がかからない場所に設置して下さい。
- ・エアコンの吹き出し口は高温になり、また結露の原因にもなりますので、この付近への設置はお止め下さい。

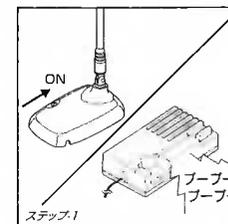
OK! 以上で基本的な取り付け作業は終了です。

次に必ず「オートマチック車の登録」をして下さい。

M/T車への取り付け防止のためのA/T車判別機能を搭載しています。
(取り付け時にA/T車の認識作業を行いますので、M/T車にはお取り付け出来ません。)
登録作業中はエンジンを始動させないで下さい。誤って始動させた場合、ステップ1からやり直して下さい。

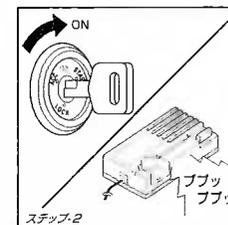
ステップ1 アンテナUNITのパワースイッチをONにします。
この時、エンジンスターター本体から、「ブーブー ブーブー…」と断続音が鳴り続けます。

メモ ブザーが鳴らない場合は、アースが確実に取れているか、また車種別専用ハーネスの品番が間違っていないか、再確認して下さい。



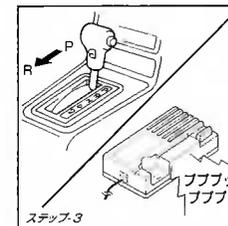
ステップ2 キーをONの位置にします。
この時、エンジンスターター本体からの断続音が、「ブッ ブッ…」の2連音へと変化します。

メモ この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。もし始動させた場合、ステップ1からやり直して下さい。

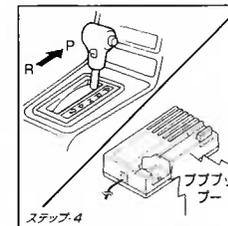


ステップ3 シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。
エンジンスターター本体からの断続音が、「ブッブッ ブッブッ…」の3連音へと変化します。

注意 ・シフト操作は、ブレーキを踏んでゆっくり操作して下さい。
・断続音に変化する事を必ず確認して下さい。断続音に変化しない場合は一度作業を中断し、専用ハーネス付属の「専用ハーネス接続時の注意事項」を確認して下さい。(追加配線を行う必要があります。) なお、追加配線後はステップ1からやり直して下さい。



ステップ4 シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。
この時、エンジンスターター本体から「ブッブッ ブー」と音が鳴り、オートマチック車の登録が終わった事を知らせて鳴り止みます。



ステップ5 キーをOFFにします。

OK! 以上でオートマチック車の登録は終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス (アース線) を外すとオートマチック車の登録情報が消去されます。この場合には再度オートマチック車の登録を行って下さい。

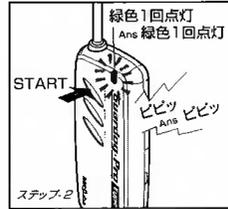
エンジンスターターの動作確認

うまく動作しない場合の対応(エンジンスターター)

ステップ1 エンジンスターターの動作確認の前に、必ず車を下記の状態にして下さい。

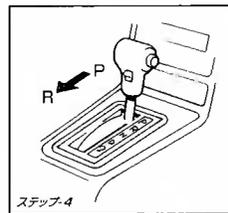
警告 周囲の安全を確認の上、パーキングブレーキをしっかりとかけて下さい。シフトレバーは、必ずPレンジにして下さい。重大な事故につながる恐れがあります。

ステップ2 リモコンのSTARTスイッチを押します。
リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、送信音「ビピッ」が鳴るまでSTARTスイッチを押し続けます。この時LED緑色が1回点灯します。その後、約1秒後にアンサーバック音「ビピッ」が鳴り、同時にLED緑色が1回点灯します。



ステップ3 エンジンが始動します。
エンジンスターター本体が信号を受信すると、数秒後にスターターが回りエンジンが始動します。エンジン始動後は、エンジンスターター本体から警告音「ブッ」が数秒間隔で鳴り続けます。一度で始動しない場合は、その後2回のリトライ(再始動)動作を行います。

ステップ4 シフトセンサーの確認をします。
リモコンでエンジンが始動した後、キーを差さずにフットブレーキをしっかりと踏みながら、シフトレバーをゆっくりとPレンジからRレンジへと動かします。この時エンジンが止まる事を確認します。



メモ 車種によっては、キーを差さないとシフトレバーが動かせないものもあります。その場合は、キーをACCの位置まで回して確認して下さい。

OK! 以上でエンジンスターターの動作確認は終了です。
正常に動作した場合は、17~19ページ「警報機の動作確認」を行って下さい。
また、正常に動作しない場合は、下表を参考に対処して下さい。

エラー発生時のQ&A

Q (症状)	A (対処方法)																
●ステップ2でリモコンSTARTスイッチ操作1秒後のアンサーバック音「ビピッ」及びLED緑色の点灯状態が説明と異なるのですが…?	<table border="1"> <thead> <tr> <th>アンサーバック音</th> <th>リモコンLED</th> <th>状態</th> <th>対処</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブーブ</td> <td>橙色2秒点灯</td> <td>アンテナUNITからのアンサー信号が受信出来ません。</td> <td>アンテナUNITの「パワースイッチ」が入っていません。スイッチをONにして下さい。</td> </tr> <tr> <td>ブー</td> <td>点灯しない</td> <td>アンテナUNITとエンジンスターター本体とのシステムエラーです。</td> <td>アンテナUNITのケーブルがきちんとエンジンスターター本体に接続されていません。しっかりと接続して下さい。</td> </tr> <tr> <td>ブブブブ</td> <td>橙色4回点滅</td> <td>キャリアセンス確認エラーです。</td> <td>近くで同じ周波数(429MHz)を使用した無線機器が電波を送出中です。暫く時間(数秒程度)を置いてからもう一度操作して下さい。</td> </tr> </tbody> </table>	アンサーバック音	リモコンLED	状態	対処	ブーブ	橙色2秒点灯	アンテナUNITからのアンサー信号が受信出来ません。	アンテナUNITの「パワースイッチ」が入っていません。スイッチをONにして下さい。	ブー	点灯しない	アンテナUNITとエンジンスターター本体とのシステムエラーです。	アンテナUNITのケーブルがきちんとエンジンスターター本体に接続されていません。しっかりと接続して下さい。	ブブブブ	橙色4回点滅	キャリアセンス確認エラーです。	近くで同じ周波数(429MHz)を使用した無線機器が電波を送出中です。暫く時間(数秒程度)を置いてからもう一度操作して下さい。
アンサーバック音	リモコンLED	状態	対処														
ブーブ	橙色2秒点灯	アンテナUNITからのアンサー信号が受信出来ません。	アンテナUNITの「パワースイッチ」が入っていません。スイッチをONにして下さい。														
ブー	点灯しない	アンテナUNITとエンジンスターター本体とのシステムエラーです。	アンテナUNITのケーブルがきちんとエンジンスターター本体に接続されていません。しっかりと接続して下さい。														
ブブブブ	橙色4回点滅	キャリアセンス確認エラーです。	近くで同じ周波数(429MHz)を使用した無線機器が電波を送出中です。暫く時間(数秒程度)を置いてからもう一度操作して下さい。														
●エンジンは始動しているのに数秒で停止してしまい、自動的に再始動(リトライ)が行われてしまうのですが…?	▶ エンジンの自動始動検出が、うまく行われていないと考えられます。詳しくは、13ページの「L端子検出方式への変更」を参照して下さい。																
●エンジンは始動していないのにメーターパネルが点灯したままになってしまうのですが…?	▶ 一部のディーゼル車等でグロー(予熱)時間が定まらない事が考えられます。詳しくは、14ページの「始動パターンの切替」を参照して下さい。																
●寒冷時に始動がうまく行われないのですが…?	▶ スターターモーターの駆動時間が短いために、1回目のスターター駆動でエンジンがかからず、リトライしてしまうのですが…?																
●リモコン操作による始動後にABS警告灯が消灯しないのですが…?	▶ キー始動学習を行う事で警告灯が消灯するようになります。詳しくは、15ページの「キー始動学習機能の設定」を参照して下さい。																
●リモコン操作によるエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しないのですが…?	▶ オートマチックシフトの検出がうまく行われていないと考えられます。詳しくは、16ページの「フットブレーキ検出方式への変更」を参照して下さい。																

L端子検出方式への変更

ステップ1 アンテナUNITのパワースイッチを切ります。
既に付属の安全センサーケーブルがエンジンスターター本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。



ステップ2 車のオルタネーターから出ているL端子線を探します。
L端子線とは、イグニッションONの位置でエンジンが停止している時、約1~3V、エンジンが駆動している時、約12~14Vになる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)

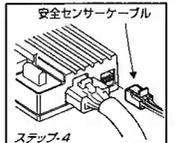


ステップ3 安全センサーケーブルの灰色線を接続します。
安全センサーケーブルの灰色線をグローメット等を利用して、車室内からエンジンルームに引き込み、オルタネーターから出ているL端子線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)

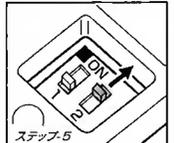


注意 接触不良が起きない様に確実に取り付けて下さい。なお、エレクトロタップは防水のためテーピングして下さい。灰色線がボディの金属部分に触れると、ショートを起こし車両故障の原因となる恐れがあります。

ステップ4 安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部(CN2)に接続します。



ステップ5 エンジンスターター本体のモードスイッチ2をONにします。
スイッチが小さいため、ボールペンの先端等で行って下さい。

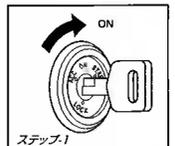


OK! 以上でL端子配線は終了です。
パワースイッチをONにしてリモコンで問題なくエンジン始動出来る事を確認して下さい。なお、接続したL端子が正しいか否かを、本体の「CHGランプ」の点灯状態で確認する事が出来ます。チェック方法は、下記「L端子誤配線チェック機能」に習って行って下さい。

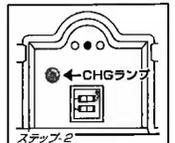
L端子誤配線チェック機能

以下のチェック方法は、モードスイッチ2がONのときにのみ行う事が出来ます。

ステップ1 キーをONの位置にします。
この時、エンジンスターター本体の「CHGランプ」が点灯する事を確認します。「CHGランプ」が点灯しない場合、L端子配線の接続先の間違いや接触不良が考えられます。配線先を見直して下さい。



ステップ2 上記操作後30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。
エンジンが始動すると同時に「CHGランプ」が消灯すれば、L端子配線の接続先は正しく配線されています。「CHGランプ」が消灯しない場合、L端子配線の接続先が間違っていると考えられますので配線先を見直して下さい。なお、30秒以内に操作が完了しないと、確認は出来ません。(エンジンスターター本体から「ビービー」という警告音がします。)キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



OK! 以上でL端子誤配線チェックは終了です。

取り付け作業

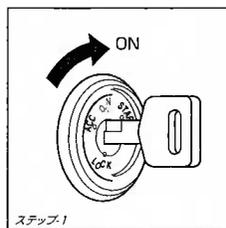
取り付け作業

始動パターンの切替

一部のディーゼル車等で、グロー(予熱時間)が必要な場合、以下の操作をする事によりグローを設定する事が出来ます。グローは6秒です。お取り付け時はグロー設定が解除されています。

ステップ1 キーをONの位置にします。

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。以降の操作が出来ません。

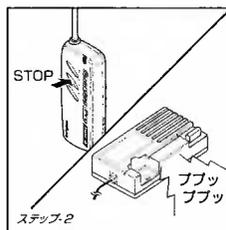


ステップ2 10秒以内にリモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブプッ ブプッ…」の2連音が鳴ります。この時、リモコンは以下の表示をします。

リモコンの送信表示 【音「ピーツ」、LED赤色1回点灯】
リモコンのアンサー表示 【音「ピーツ・ピーツ」、LED赤色2秒点灯】

メモ 10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。10秒以上経過した場合のアンサー表示は、【音「ブーブー」LED橙色2秒点灯】となります。



ステップ3 30秒以内に次の操作を行います。

リモコンのSTOPスイッチを押してから30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ピーピー」という警告音がして、その後の操作が無効になります。キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。

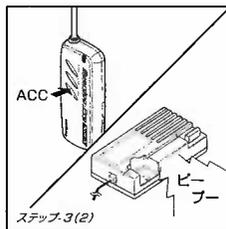
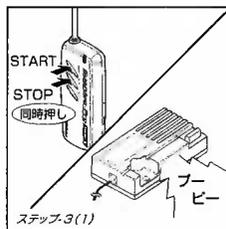
(1) グロー(予熱時間)を設定する場合。

リモコンのSTARTスイッチとSTOPスイッチを同時に押します。エンジンスターター本体から「ブーブー」という音がして、グローが設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

(2) グロー(予熱時間)を解除する場合。

リモコンのACCスイッチを押します。エンジンスターター本体から「ピーピー」という音がして、グローの設定が解除されたことを知らせ、鳴り止みます。

メモ リモコンのACCスイッチは押す毎に、「ピー・ピツ」と「ピビビピツ」音が交互に鳴りますが、設定には支障ありません。



ステップ4 キーをOFFにします。

OK! 以上で始動パターンの切替は終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。

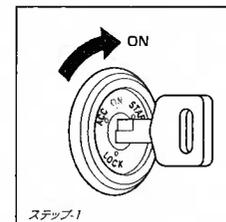
キー始動学習機能の設定

次の様な場合には、キー始動学習機能を設定して下さい。(エンジン停止状態から始めて下さい。)

- リモコン始動時にABS警告灯が点灯したままとなってしまう。
- スターターモーター駆動時間が短かすぎてエンジンがかかりにくい。

ステップ1 キーをONの位置にします。

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。以降の操作が出来ません。

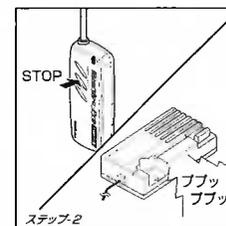


ステップ2 10秒以内にリモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブプッ ブプッ…」の2連音が鳴ります。この時、リモコンは以下の表示をします。

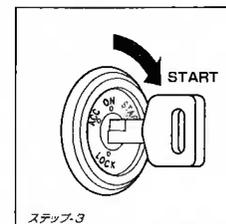
リモコンの送信表示 【音「ピーツ」、LED赤色1回点灯】
リモコンのアンサー表示 【音「ピーツ・ピーツ」、LED赤色2秒点灯】

メモ 10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。10秒以上経過した場合のアンサー表示は、【音「ブーブー」、LED橙色2秒点灯】となります。



ステップ3 30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

エンジンスターター本体から「ブプブプー」と音が鳴りキー始動学習が行われた事を知らせ、鳴り止みます。この時にスターターモーター駆動時間を「0.8~2.5秒」の範囲で学習し、以降リモコン始動時のスターターモーター駆動時間になります。よって、通常使用時と同一環境下で学習操作を行うと効果的です。30秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。(エンジンスターター本体から「ピーピー」という警告音がします。)キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



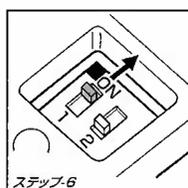
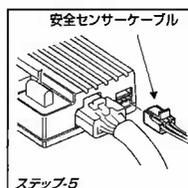
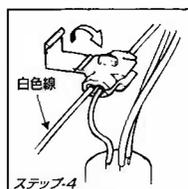
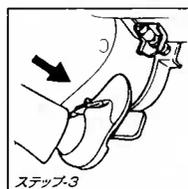
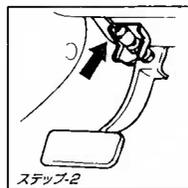
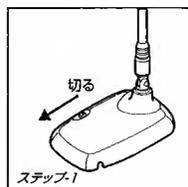
ステップ4 キーをOFFにします。

OK! 以上でキー始動学習機能の設定は終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。

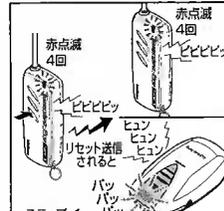
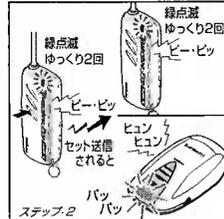
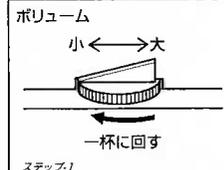
フットブレーキ検出方式への変更

- ステップ1** アンテナUNITのパワースイッチを切ります。
既に付属の安全センサーケーブルがエンジンスターター本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。
- ステップ2** 車のフットブレーキスイッチを探します。
フットブレーキスイッチはブレーキペダルの根元付近にあります。
メモ フットブレーキとは、フット式パーキングブレーキの事ではありません。
- ステップ3** ブレーキペダルを踏んだとき12Vになる線を見つけます。
フットブレーキスイッチから出ている線の内、ブレーキペダルを踏まない時は0V、踏んだ時に12Vになる線を見つけて下さい。(必ずテスターをご使用下さい。)
- ステップ4** 安全センサーケーブルの白色線を接続します。
安全センサーケーブルの白色線を、ステップ3で見つけた線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)
注意 接触不良が起きない様に確実に取り付けて下さい。フットブレーキ検出がうまく行かない場合があります。なお、エレクトロタップ部は、防水のためテーピングして下さい。
- ステップ5** 安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部(CN2)に接続します。
- ステップ6** エンジンスターター本体のモードスイッチ1をONにします。
- OK!** 以上でフットブレーキ配線は終了です。
パワースイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、フットブレーキを踏んだ時にエンジンが停止する事を確認して下さい。



電圧パルスセンサーの動作確認

- 車両のルームランプ点灯を電圧パルスセンサーが感知し、連続警報(約26秒)するかどうか確認します。
- ステップ1** ルームランプスイッチをドア連動位置にして警報機本体の感度調整ボリュームを最小にします。
メモ ルームランプスイッチのドア連動位置とは、ドアを開けると点灯し、閉めた時に消灯する位置です。
- ステップ2** 車を降りてドアを閉め、ルームランプの消灯を確認してから、リモコンのACCスイッチで警報機をセットします。
26ページ「警報機をセットする」の手順にしたがって、警報機をセットします。この時、警報機が「セット確認表示」→「スタンバイモード」→「監視モード」と正常に移行するか確認して下さい。
注意 ドアを開める際に取り付け作業中の部品等をドアに挟まないよう注意して下さい。
- ステップ3** 警報機が監視モードに変わったらドアを開けます。
この時、ルームランプ点灯と同時に警報機が警報することを確認して下さい。この時、警報機は約26秒間警報をします。(警報は自動的に停止します。)
- ステップ4** ルームランプ点灯に対して正常に警報することを確認したら警報機をリセットします。
28ページ「警報機をリセットする」の手順にしたがって、警報機をリセットします。この時、警報機が正常にリセット確認表示【ブザー「ヒュンヒュンヒュン」、セキュリティインジケータ3回点滅】することを確認して下さい。
- OK!** 以上で警報機の電圧パルスセンサーの動作確認は終了です。
正常に動作しない場合は、下表を参考に対処して下さい。



エラー発生時のQ&A

Q (症状)	A (対処方法)
● ルームランプを点灯させていないのに警報してしまうのですが…?	▶ 他の電装品の影響でバッテリー電圧が変動していると考えられます。電圧パルスセンサーをOFFにして、ドアスイッチ入力センサーを設定して下さい。 →20~21ページ「電圧パルスセンサーON/OFF切替方法」参照 →23~24ページ「ドアスイッチ入力センサーの追加設定」参照
● ドアを開けてルームランプ点灯させても連続警報しないのですが…?	▶ ルームランプ点灯時のバッテリー電圧変動が非常に小さいため、センサーが電圧変動を感知できないと考えられます。この場合は、電圧パルスセンサーをOFFにしてドアスイッチ入力センサーを設定して下さい。 →20~21ページ「電圧パルスセンサーON/OFF切替方法」参照 →23~24ページ「ドアスイッチ入力センサーの追加設定」参照 また、一旦セットしてから60分以内に3回電圧パルスセンサーによる警報を行った場合、以後60分間は電圧パルスセンサーによる警報は行われません。 →32ページ「誤動作軽減機能について」参照
● エンジン停止直後に警報機をセットしたら、ルームランプを点灯させてもいないのに、警報してしまうのですが…?	▶ 他の電装品の影響により、エンジン停止後しばらくバッテリー電圧が安定しないためと考えられます。この場合は、スタンバイモード時間を「5秒」から「30秒」へ変更して下さい。 →21~22ページ「スタンバイモード時間の切替方法」参照 なお、スタンバイモードを30秒へ変更しても改善しない場合は、電圧パルスセンサーをOFFにしてドアスイッチ入力センサーを設定して下さい。 →20~21ページ「電圧パルスセンサーON/OFF切替方法」参照 →23~24ページ「ドアスイッチ入力センサーの追加設定」参照

取り付け作業

取り付け作業

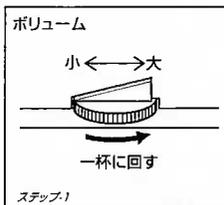
振動センサーの動作確認

車両に与えられた振動を振動センサーが感知し、警報するかどうかを確認します。この時、軽い振動に対しては威嚇警報（約1秒）にて警報し、強い振動に対しては連続警報（約26秒）にて警報します。

ステップ1 警報機本体側面の感度調整ボリュームを最大にします。

ステップ2 車を降りてドアを閉めてから、リモコンのACCスイッチで警報機をセットします。

注意 ドアを閉める際に取り付け作業中の部品等をドアに挟まないように注意して下さい。



ステップ1

ステップ3 警報機が監視モードに変わったら、車体に振動を与えて振動センサーが感知するかどうか確認します。

軽い振動に対しては威嚇警報（約1秒）、強い振動に対しては連続警報（約26秒）にて警報することを確認して下さい。



注意 動作確認の際に車へ振動を与える場合、強く叩きすぎてケガをすることのないようお気を付け下さい。また、ガラスやボディ等が破壊しないように十分注意して下さい。万一破損等が発生しても、当社では一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。



ステップ3

ステップ4 車体に与えた振動に対して正常に警報することを確認したら警報機をリセットします。

28ページ「警報機をリセットする」の手順にしたがって、警報機をリセットします。この時、警報機が正常にリセット確認表示 [ブザー「ヒュンヒュン」、セキュリティインジケータ2回点滅] することを確認して下さい。



ステップ3

OK! 以上で警報機の振動センサーの動作確認は終了です。

正常に動作しない場合は、下表を参考に対処して下さい。

エラー発生時のQ&A

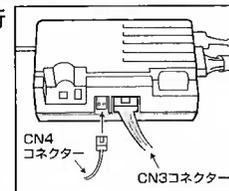
Q (症状)	A (対処方法)
●軽い振動を与えても、連続警報してしまうのですが…?	▶ 警報機本体側面の感度調整ボリュームを回して感度を調整して下さい。
●車体に振動を与えていないのに、威嚇警報してしまうのですが…?	▶ 警報機本体がしっかりと固定されているか確認して下さい。また、幹線道路沿い、工事現場、工場付近、飛行場付近、線路付近等に車を停車した場合、または台風、豪雨等の気象条件下では警報を発する場合があります。
●感度が悪いのですが…?	▶ 振動センサーの感度は警報機本体の設置場所や車両のボディ剛性に大きく影響されます。反応させたい振動に対して振動センサーが感知しない場合は、警報機本体の設置場所を変えてみて下さい。また、一旦セットしてから60分以内に3回振動センサーが強い振動を感知して連続警報を行った場合、以後60分間は強い振動を感知しても連続警報は行わず、威嚇警報にて警報します。 →32ページ「誤動作軽減機能について」参照

警報報知機能の設定

各センサーが正常に感知することを確認したら、警報報知機能の設定を行います。下記の接続作業を行って下さい。

警報機本体から出ているハーネスの2Pコネクターをエンジンスタート本体のコネクター部 (CN4) へ接続します。

警報機本体から出ているハーネスの2Pコネクターは2種類あります。桃色リード線 (1本) についているコネクターを接続して下さい。



警報報知機能の動作確認

センサーが異常 (大振動またはドア開) を感知して連続警報が発せられた場合、リモコンで警報機が警報していることを確認することが出来ます。

ステップ1 車を降りてドアを閉めてから、リモコンのACCスイッチで警報機をセットします。

ステップ2 リモコン裏側にある監視モードスイッチをONにします。

監視モードスイッチをONにすることで、警報機が連続警報を発した際にリモコンが警報報知信号を受信できるようになります。

ステップ3 警報機が監視モード中であることを確認してから車体に振動を与えるかドアを開けるかして警報機を連続警報させます。

威嚇警報では警報報知機能は動きません。必ず連続警報させて下さい。

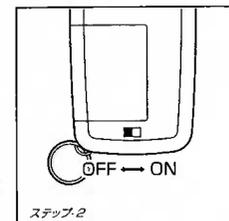
ステップ4 警報機が連続警報を始めたら、リモコンが警報報知信号を受信することを確認します。

リモコンが一旦、警報報知信号を受信すると、警報報知表示 [音「ピーッ・ピーッ」、LED 緑色と赤色の交互点滅] を2分間表示します。

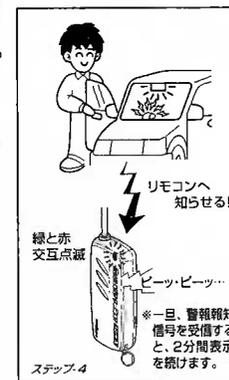
ステップ5 リモコンの警報報知表示を2分間確認してから、警報機をリセットします。

OK! 以上で警報機の警報報知機能の動作確認は終了です。

正常に動作しない場合は、下表を参考に対処して下さい。



ステップ2



ステップ4

エラー発生時のQ&A

Q (症状)	A (対処方法)
●警報機が警報開始してからリモコンが警報表示するまでに遅れが生じるのですが…?	▶ リモコンが警報報知信号を受信するのは、30秒に1回の間欠受信です。そのため、警報機の警報に対し最大29秒の遅れが生じます。 →31ページ「警報報知機能について」参照
●警報機が連続警報中にリモコン操作が出来ないのですが…?	▶ 警報機が警報中 (アンテナUNITから警報報知信号送信中) は、リモコン操作が来ません。→31ページ「警報報知機能について」参照 この時、リモコン操作するとキャリアセンスエラーとなります。→45ページ「主な動作仕様一覧」内の●アンサーバック受信一覧表参照
●警報機が連続警報しても、リモコンが警報報知表示しないのですが…?	▶ ・2Pコネクターを確認して下さい。 ・リモコンが受信可能距離にあるか確認して下さい。 →31ページ「警報報知機能について」参照

電圧パルスセンサーのON/OFF切替方法

エンジン停止時に他の電装品等の影響でバッテリー電圧が変動する車両については電圧パルスセンサーがその電圧変動を感知してしまう場合があります。このような場合は、電圧パルスセンサーをOFFにして下さい。

ステップ1 警報機本体上面のモード切替ボタンをセキュリティインジケータが点灯するまで長押しします。(約1秒)

この時警報機本体は、電圧パルスセンサー ON/OFF切替受付モードとなり、セキュリティインジケータは連続点灯となります。



ステップ2 セキュリティインジケータが連続点灯の状態、モード切替ボタンを1回チョン押しします。

この時セキュリティインジケータは1秒に1回の点滅を始めます。

メモ

セキュリティインジケータの1回/秒の点滅は、電圧パルスセンサーがON設定されていることを表しています。お取り付け時(初期状態)はON設定になっています。



Point!

セキュリティインジケータが1秒に1回の点滅ではなく、速い点滅を始めたら...

モード切替ボタンをチョン押しではなく長押ししてしまうと、「スタンバイモード時間切替モード」になってしまいます。もし、セキュリティインジケータが1秒に1回の点滅ではなく速い点滅を始めたら、モード切替ボタンを連続で2回チョン押しして下さい。セキュリティインジケータは消灯し、設定操作を行う前の状態に戻ります。その後、改めてステップ1からやり直して下さい。

ステップ3 セキュリティインジケータが1秒に1回の点滅をすることを確認した上で、もう一度モード切替ボタンをチョン押しします。

この時、セキュリティインジケータは1秒に2回の点滅を始めます。

メモ

セキュリティインジケータの2回/秒の点滅は、電圧パルスセンサーがOFF設定されていることを表しています。

Point!

セキュリティインジケータの点滅パターンで電圧パルスセンサーの設定モードが確認出来ます。

モード切替ボタンをチョン押しする毎に電圧パルスセンサーの設定は、ON→OFF→...と順に切替わります。ON、OFFのどちらになっているかはセキュリティインジケータの点滅パターンで確認して下さい。

- ・1秒に1回の点滅をしているとき→「ON」
- ・1秒に2回の点滅をしているとき→「OFF」



ステップ4 ON/OFFの設定が決まったら、モード切替ボタンをセキュリティインジケータが連続点灯に変わった時まで長押しします。(約1秒)

メモ

セキュリティインジケータが連続点灯に変わった時点で電圧パルスセンサーの設定が決定されます。



ステップ5 セキュリティインジケータが連続点灯の状態、モード切替ボタンを1回チョン押しします。

この時セキュリティインジケータは消灯します。

OK! 以上で電圧パルスセンサーのON/OFF設定は終了です。

注意

車種別専用ハーネスや車両のバッテリーを外したり、警報機とエンジンスターターとの接続を外すと、電圧パルスセンサーの設定はON設定に戻ります。OFF設定でご使用の場合は、再度切替え操作を行って下さい。

スタンバイモード時間の切替方法

エンジン停止直後に電圧が安定しないために、エンジン停止直後に警報機をセットすると電圧パルスセンサーが反応してしまう車両があります。このような場合は、スタンバイモード時間を30秒へ切替えて下さい。

ステップ1 警報機本体上面のモード切替ボタンをセキュリティインジケータが点灯するまで長押しします。(約1秒)

この時警報機本体は、電圧パルスセンサー ON/OFF切替受付モードとなり、セキュリティインジケータは連続点灯となります。



ステップ2 もう一度、モード切替ボタンをセキュリティインジケータが連続点灯から速い点滅に変わるまで長押しします。(約1秒)

この時警報機本体は、スタンバイモード時間切替受付モードとなり、セキュリティインジケータは速い点滅を続けます。



Point!

セキュリティインジケータが速い点滅ではなく、1秒に1回の点滅を始めたら...

モード切替ボタンを長押しではなくチョン押ししてしまうと、電圧パルスセンサー ON設定表示になってしまいます。もし、セキュリティインジケータが速い点滅ではなく1秒に1回の点滅を始めたら、モード切替ボタンを連続で2回チョン押しして下さい。セキュリティインジケータは消灯し、設定操作を行う前の状態に戻ります。その後、改めてステップ1からやり直して下さい。

ステップ3 セキュリティインジケータが速い点滅をしている状態で、モード切替ボタンを1回チョン押しします。

この時セキュリティインジケータは、1秒に1回の点滅を始めます。

メモ

セキュリティインジケータの1回/秒の点滅は、スタンバイモード時間が5秒に設定されていることを表しています。お取り付け時(初期状態)は5秒設定になっています。



ステップ4 セキュリティインジケータが1秒に1回の点滅をすることを確認した上で、もう一度モード切替ボタンをチョン押しします。

この時、セキュリティインジケータは1秒に2回の点滅を始めます。

メモ セキュリティインジケータの2回/秒の点滅は、スタンバイモード時間が30秒に設定されていることを表しています。



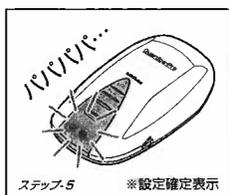
Point! セキュリティインジケータの点滅パターンでスタンバイモード時間の設定モードが確認出来ます。

モード切替ボタンをチョン押しする毎にスタンバイモード時間の設定は、5秒→30秒→5秒...と順に切替わります。5秒、30秒のどちらになっているかはセキュリティインジケータの点滅パターンで確認して下さい。

- ・1秒に1回の点滅をしているとき→「5秒」
- ・1秒に2回の点滅をしているとき→「30秒」

ステップ5 5秒/30秒の設定を決めたら、モード切替ボタンをセキュリティインジケータが速い点滅に変わるまで長押しします。(約1秒)

メモ セキュリティインジケータが速い点滅に変わった時点でスタンバイモード時間の設定が決定されます。



ステップ6 セキュリティインジケータが速い点滅をしている状態で、モード切替ボタンを1回チョン押しします。

この時セキュリティインジケータは消灯します。

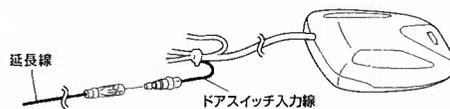
OK! 以上でスタンバイモード時間の時間設定は終了です。

注意 車種別専用ハーネスや車両のバッテリーを外したり、警報機とエンジンスタートとの接続を外すと、スタンバイモード時間の設定は5秒に戻ります。30秒設定でご利用の場合は、再度切替え操作を行って下さい。

ドアスイッチ入力センサーの追加設定

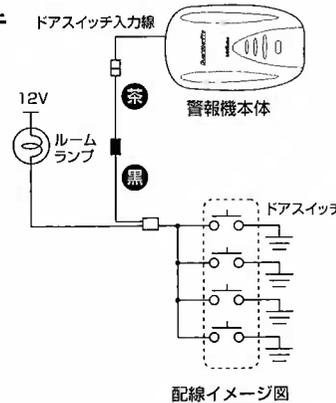
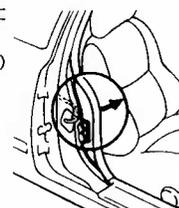
ドアスイッチ入力センサーをお使いになる場合は、下記の配線作業を行って下さい。この時、電圧パルスセンサーは必ずOFFに設定して下さい。ドアスイッチ入力センサーをお使いになると、エンジンスタート及び、ターボタイマー機能によるアイドル中にもドア開を感知し、警報することが出来ます。

ステップ1 警報機本体から出ているハーネスのドアスイッチ入力線に延長線(茶コード側)を接続します。



ステップ2 車の運転席側ドアスイッチ線を探します。

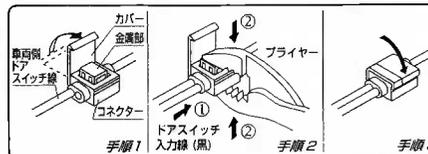
ドアを開けた時は0V、閉めた時に12Vとなる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)



ステップ3 ドアスイッチ入力線の延長線を接続します。

ドアスイッチ入力線の延長線の黒コード側をステップ2で見つけた線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)

エレクトロタップの接続方法



注意 接触不良が起こらない様に確実に取り付けて下さい。ドアスイッチ検出がうまく行けない場合があります。

ステップ4 ドアを閉めた状態で警報機をセットし、その後、運転席側ドアを開けた時に警報することを確認します。

この時、ドアを開けた時点で警報開始し、ドアを閉めた後も約26秒間警報し続けます。

注意 電圧パルスセンサーをOFFに設定してから動作確認を行って下さい。→20~21ページ「電圧パルスセンサーのON/OFF切替方法」参照

ステップ5 運転席以外のドアを開け、それぞれのドアに対しても反応するかどうか確認します。反応するようなら、以上で作業は終了です。

☆☆☆☆☆☆ 運転席以外のドアを開けたときに反応しない場合は下記の作業を行って下さい。☆☆☆☆☆☆

注意 以下の作業を行うには、ダイオードUNIT延長用のリード線と接続用のエレクトロタップ等をご用意頂く事になりますので、あらかじめお買い求め下さい。【推奨リード線:自動車用低電圧線(AV線)0.5mm²サイズ】

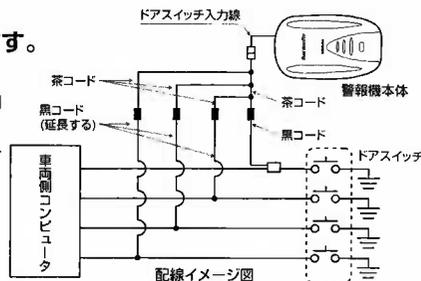
ステップ6 ドアを開けたときに警報させたい全てのドアに対してステップ2と同じ要領でドアスイッチ線を探します。

取り付け作業

取り付け作業

ステップ7 ドアスイッチ入力線を右図のように接続します。

- ① 付属のダイオードUNITの黒コード側をリード線(別途用意下さい)で延長してステップ6で探した線にエレクトロタップ等(別途用意下さい)でそれぞれ接続します。
- ② 黒コード側を配線したダイオードUNITの茶コード側をドアスイッチ入力線の茶コードにエレクトロタップ等で接続します。



注意 コードの延長またはドアスイッチ線への接続の際は、接触不良のないよう注意して下さい。動作不良の原因となります。接続部はしっかりと絶縁処理して下さい。断線やショートすると誤動作の原因となります。内張り等で配線類がかみ込まれないよう十分注意して下さい。断線やショートの原因となり、動作不良、誤動作の原因となります。

OK! 以上でドアスイッチセンサーの設定は終了です。

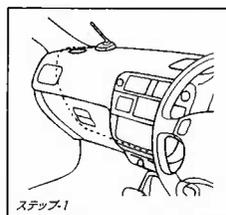
警報機をセットし、運転席以外のドアに対して反応することを確認して下さい。

仕上げ

アンテナUNITの取り付け

ステップ1 アンテナUNITを設置します。

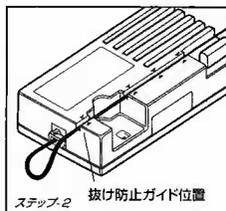
ダッシュボードのサイドピラーから10cm以上離し、出来るだけフロントガラスに近い平らな場所に設置して下さい。マジックテープは、アンテナUNIT裏面のラベルを避けて貼って下さい。



警告

アンテナUNITは、運転の妨げにならない場所に設置して下さい。アンテナを手前寄りに取り付けた場合、急ブレーキ等によりアンテナに顔をぶつけてケガをする恐れがあります。ガラス面に近い場所にしっかり固定して下さい。エアバック装着車には、エアバックカバー部へ固定しないで下さい。エアバック作動時にケガをする恐れがあります。

ステップ2 エンジンスターター本体の抜け防止ガイドにアンテナUNITのケーブル線を固定して下さい。



未使用端子の処理、エンジンスターター本体の取り付け

ステップ1 未使用端子の絶縁処理をします。

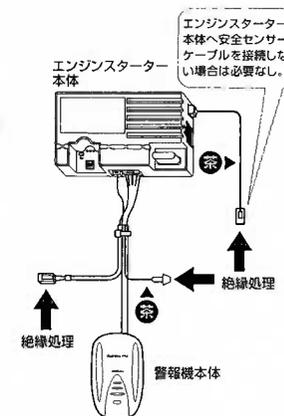
- 【警報機ハーネス】
- ドアスイッチ入力線の配線を行わなかった場合は、警報機ハーネスのドアスイッチ入力線(茶コード)に付いているギボシ端子をビニールテープ等で絶縁処理して下さい。
 - キーレスアダプター(別売KES-04)を接続しない場合は、キーレスアダプター接続用2Pコネクタをビニールテープ等で絶縁処理して下さい。
- 【安全センサーケーブル】
- 安全センサーケーブルのドアスイッチ配線を行わなかった場合は、ドアスイッチ配線に付いているギボシ端子をビニールテープ等で絶縁処理して下さい。



メモ 安全センサーケーブルのドアスイッチ配線を行うことにより、リモコンでのアイドリング中にドアを開けると、エンジンを停止させることが出来ます。
→36ページ「運転席ドアスイッチ配線を行う場合」参照



注意 絶縁処理は確実に行って下さい。ショートして誤動作、故障の原因となります。



ステップ2 配線したケーブル類を整理します。

これまでに配線したケーブル類をビニールテープや付属の結束バンド等で確実に固定して下さい。



警告 配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートの原因となり、製品や車の故障、さらには車両火災を起こす可能性があります。ステアリングシャフトやブレーキペダルの可動部付近には固定しないで下さい。運転の妨げになり事故の原因となります。

ステップ3 エンジンスターター本体を設置します。

エンジンスターター本体を運転操作の邪魔にならない場所に、付属の結束バンド等を使用して設置します。



- エンジンスターター本体は、直射日光の当たる場所、エアコンの吹き出し口等の高温になる場所や足下の水の跳ね返りや外部からの水に触れる場所には設置しないで下さい。故障の原因となります。
- ステアリングシャフトやブレーキペダルの可動部付近には設置しないようにして下さい。エンジンスターター本体が干渉した場合、運転操作の妨げになり、事故の原因となります。

ステップ4 外したアンダーカバー等を元に戻します。

コーションラベルの貼り付け

エンジンルーム内の目立つ場所に貼って下さい。貼り付ける部位の汚れや油分等をきれいに除去して下さい。



危険 ボンネットを開けて作業している際に、誤って始動操作が行われると大変危険です。必ず目立つ場所に貼って下さい。

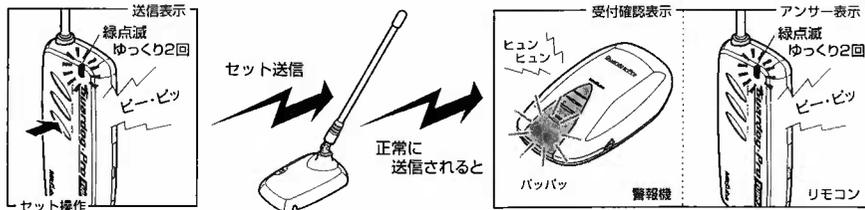
OK! 以上で取り付けは終了です。

取り付け作業が完成したら、48ページの表に設定内容をご記入下さい。

ステップ1 車を降りて、ドアをロックします。

ステップ2 リモコンで警報機をセットします。

リモコンのACCスイッチをセット音「ビー・ビツ」が鳴るまで押して、警報機をセットします。このとき、セット音と同時にリモコンのLED緑色がゆっくり2回点滅します。セット送信が正常に行われると、再度セット音「ビー・ビツ」とLED緑色がゆっくり2回点滅します。また、警報機はセット確認表示として、「ヒュンヒュン」と鳴りセキュリティインジケータが2回点滅します。



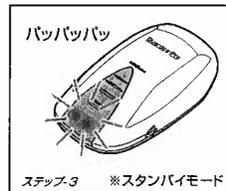
メモ

- ・リモコンのACCスイッチは押す毎にセット信号とリセット信号を交互に発信します。スイッチを押した時にリセット信号【音「ビビビツ」、LED赤色4回点滅】が発信された場合は、もう一度押して下さい。
- ・ドアスイッチ入力センサーを設定しておけば、半ドアの状態でもセット操作を行うと、警告音によりお知らせします。
→32ページ「半ドア警告機能について」参照

ステップ3 警報機が正常にセットされると、自動的に約5秒間のスタンバイモードへ移行します。

スタンバイモードの間、セキュリティインジケータは速い点滅(0.5秒に1回点滅)をします。

メモ スタンバイモードの時、振動センサーと電圧パルスセンサーは機能しません。ただし、ドアスイッチ入力センサーは機能します。
→23～24ページ「ドアスイッチ入力センサーの追加設定」参照

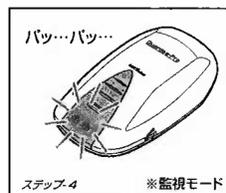


ステップ4 スタンバイモードが終了すると、自動的に監視モードへ移行します。

監視モードへ移行すると、セキュリティインジケータは遅い点滅(3秒に1回点滅)にて威嚇します。

監視モード中、振動、ドア開(ルームランプ点灯またはドアスイッチ)を感知すると、2つの警報モードにより、セキュリティインジケータとブザーで警報します。
→45～46ページ「主な動作仕様一覧」参照

また、大振動またはドア開による警報が発せられた場合は、車に異常が発生していることをリモコンで確認することが出来ます。
→31ページ「警報報知機能について」参照



エンジンスターター本体にてターボタイマー設定(→34～35ページ「ターボタイマー機能について」参照)を行った場合、警報機のセット操作については、下記の手順でお使い下さい。

ステップ1 エンジン停止後、車をおりてドアをロックします。

キーを「OFF」にすると、エンジンスターター本体から「ブツブツ」とカウントダウン音がしてターボタイマーが作動を開始します。

ステップ2 ターボタイマー作動中に警報機をセットします。

リモコンのACCスイッチをセット音「ビー・ビツ」が鳴るまで押して、警報機をセットします。この時、リモコンのLED緑色がゆっくり2回点滅します。また、正常にセットされると、警報機、リモコンともに確認表示をします。(エンジン停止時にセットした時と同様です。)

ステップ3 警報機がセットされると、自動的にスタンバイモードへ移行します。

アイドリング中は、スタンバイモードを継続します。

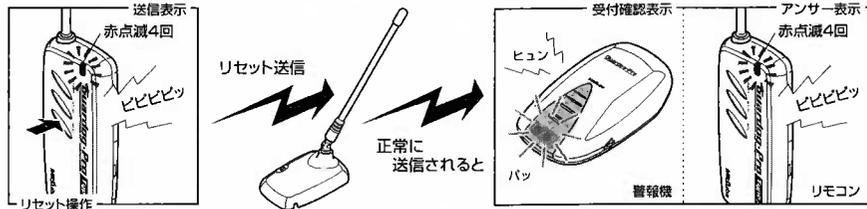
ステップ4 エンジン停止してから約5秒後、スタンバイモードから監視モードへ自動的に移行します。

Point! 監視モード移行後、勝手に警報してしまったら...

お車によっては、他の電装品等の影響により、エンジン停止後もしばらくバッテリー電圧が安定しない場合があります。その場合は、スタンバイモード時間を5秒→30秒へ変更して下さい。
→21～22ページ「スタンバイモード時間の切替方法」参照
尚、スタンバイモードを30秒へ変更しても改善しない場合は、電圧パルスセンサーをOFFにしてドアスイッチ入力センサーを設定して下さい。
→20～21ページ「電圧パルスセンサーのON/OFF切替方法」参照
→23～24ページ「ドアスイッチ入力センサーの追加設定」参照

ステップ 1 リモコンで警報機をリセットします。

リモコンのACCスイッチをリセット音「ビビビビ」が鳴るまで押して、警報機をリセットします。この時、リセット音と同時にリモコンのLED赤色が4回点滅します。リセット送信が行われると、再度、リセット音「ビビビビ」とLED赤色が4回点滅します。また、警報機はブザーとセキュリティインジケータでリセット確認表示をします。

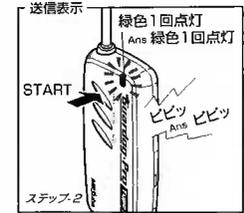


- メモ**
- ・リモコンのACCスイッチを押す毎にセット信号とリセット信号を交互に発信します。スイッチを押した時にセット信号【音「ビー・ビッ」、LED緑色2回点滅】が発信された場合は、もう一度押して下さい。
 - ・リセット時、セキュリティインジケータの点滅回数とブザー音により、監視中に警報したかどうか、あるいはどんな事象を感じて警報したかをお知らせします。→32ページ「警報履歴確認機能について」参照

注意 車を使用しない状態が15日以上続くと、エンジンスターター本体はスリープ機能(→35ページ「スリープ機能について」)が働きます。その場合は、リモコンによるリセットは出来ませんので、下記の方法でリセットして下さい。

ステップ 1 あらかじめ車を下記のような状態にします。

1. パーキングブレーキを確実にかける。
2. シフトレバーはPレンジに入れる。
3. 必要に応じてエアコンをセットする。
4. オートライト装着車は、ライトスイッチをOFFにする。
5. キーを抜く。



ステップ 2 リモコンのロッドアンテナを引き出してSTARTスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、送信音「ビビッ」が鳴るまでSTARTスイッチを押し続けます。この時LED緑色が1回点灯します。それから1秒後にアンサーバック音「ビビッ」が鳴り、同時にLED緑色が1回点灯します。

ステップ 3 車のエンジンが始動します。

数秒後、スターターが回りエンジンが始動します。一度で始動しない場合は、3回まで自動的に再始動(リトライ)します。

メモ リモコンによるアイドリング中は、エンジンスターター本体からの警告音「ビッ」が断続的に鳴り始めます。警告音は、残り時間に運動して徐々に短くなり、自動停止1分前は連続音となります。使用者にキー以外でのエンジン始動を知らせます。

警報機作動中にリモコンでエンジン始動した場合、振動センサーと電圧バルスセンサーは自動的にキャンセルされ、エンジン始動による誤動作を防止します。

さらに、セキュリティインジケータの点滅が「3秒に1回点滅」から「1秒に1回点滅」に自動的に変化します。

振動センサー	電圧バルスセンサー	ドアスイッチ入力センサー	セキュリティインジケータ
機能停止	機能停止	継続動作	約1秒に1回点滅

表.リモコンによるエンジン始動時の各センサーの動作

メモ

- ・ドアスイッチ入力センサーを設定すれば、リモコンによるエンジン始動後もドア開閉知をさせることが出来ます。→23~24ページ「ドアスイッチ入力センサーの追加設定」参照
- ・リモコンによるエンジン始動後、リモコンにてエンジン停止した場合もしくはタイマーにより自動停止した場合、警報機は自動的にスタンバイモードを経て監視モードへ復帰します。

警告 エンジンスターターによるエンジン始動後、車を運転する場合は、ドアを開ける前に必ず警報機をリセットして下さい。警報機をリセットせずに走行すると、重大な事故の原因となります。

ステップ 4 走行します。

キーを差し込み、ONの位置まで回して下さい。あとは通常通り走行出来ます。

注意 キーを回す際に、誤ってSTART (STT) の位置まで回すとスターターモーターを傷める場合があります。

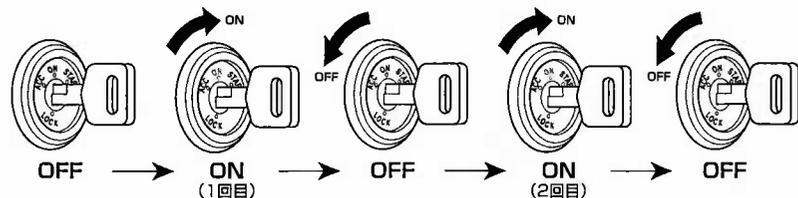
メモ

- ・警報機が作動中の場合は、リセットして下さい。
- ・安全センサーケーブルのドアスイッチ配線を行っている場合は、ドアを開けるとエンジンは停止しますので、キーにて再度エンジン始動して下さい。→36~37ページ「運転席ドアスイッチ配線を行う場合」参照
- ・リモコンでエンジン始動した後、キーを「ON」にせずに約20分が経過すると、エンジンは自動停止します。自動停止時間は「10分/20分/30分」のいずれかを選択することが出来ます。(初期状態は20分) →33ページ「アイドリング時間の設定」参照

リモコンを使用せずに警報機をリセットする

警報機作動中にエンジンスターター本体がスリープモードへ入ってしまった場合、またはリモコンが紛失あるいは故障してしまった場合は、下記の方法で警報機をリセットして下さい。

ステップ 1 キーを差し込み、下記の操作を約4秒以内に行ってください。



注意 車内へ入る場合、警報機は作動中のため警報します。よって、本操作はやむを得ない場合以外は絶対に行わないで下さい。また、操作の際には耳を痛めないよう十分注意して下さい。また、上記操作中は、絶対にリモコンスイッチを操作しないで下さい。

リモコンでエンジン停止する

本機によるアイドリング中は、リモコン操作でエンジンを停止することが出来ます。

ステップ 1 リモコンのロッドアンテナを引き出してSTOPスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、送信音「ピーツ」が鳴るまでSTOPスイッチを押し続けます。この時LED赤色が1回点灯します。それから1秒後にアンサーバック音「ピーツ」が鳴り、同時にLED赤色が1回点灯します。



ステップ 2 エンジンが停止します。

リモコンでエンジンの状態を確認する(アンサーバック)

本機はリモコンによるエンジン始動・停止を行った後、アンサーバックによりエンジンの状態を確認することが出来ます。

エンジン始動の確認

ステップ 1 リモコンのロッドアンテナを引き出してSTARTスイッチを押します。

リモコン送信表示 [音「ビビツ」、LED緑色1回点灯] がされます。



ステップ 2 アンサーバックを確認します。

(送信表示の約1秒後に表示されます。)

(a) エンジンが停止しているため始動を開始します。
→ [音「ビビツ」、LED緑色1回点灯]

(b) エンジンを始動(リトライ含む)中です。
→ [音「ビビツ」、LED緑色2回点滅]



(c) エンジンを駆動(アイドリング)中です。
→ [音「ビビツビビツ」、LED緑色2秒点灯]



エンジン停止の確認

ステップ 1 リモコンのロッドアンテナを引き出してSTOPスイッチを押します。

リモコン送信表示 [音「ピーツ」、LED赤色1回点灯] がされます。



ステップ 2 アンサーバックを確認します。

(送信表示の約1秒後に表示されます。)

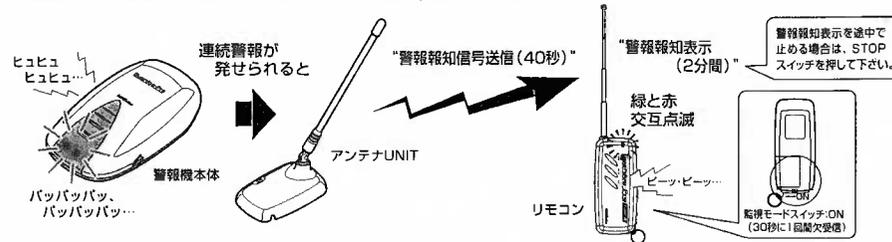
(a) エンジンが駆動しているため停止します。
→ [音「ピーツ」、LED赤色1回点灯]

(b) エンジンは既に停止しています。
→ [音「ピーツ ピーツ」、LED赤色2秒点灯]



警報報知機能について

センサーが異常(大振動またはドア開)を感知して連続警報が発せられた場合、リモコンで警報機が警報していることを確認することが出来ます。

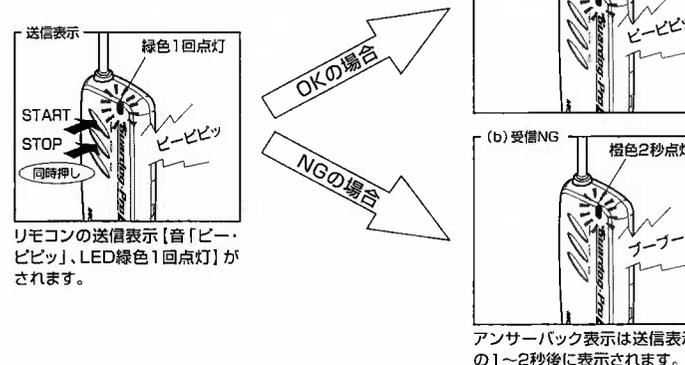


- 注意**
- ・リモコンで警報報知信号を受信する場合は、必ず監視モードスイッチをONにして下さい。
 - ・リモコンのロッドアンテナを必ず引き出した状態で使用して下さい。アンテナを収納した状態では、受信距離がおおよそ5~30m位に短くなります。
 - ・リモコンの監視モードスイッチをONにすることでリモコンは間欠受信の態勢となります。リモコンの間欠受信は30秒に1回行います。その為に警報機が警報を発し始めてからリモコンが報知信号を受信するまでに最大29秒の遅れが生じる場合があります。
 - ・リモコンの監視モードスイッチがONのときは、OFFのときよりもリモコンの電池の消耗が早くなります。警報報知機能を使用する時のみ監視モードスイッチをONにして下さい。
 - ・OA機器(パソコンやFAX等)や家電製品の近くでは、リモコンの監視モードスイッチをON状態で使用することは避けて下さい。電磁波ノイズの影響でリモコンの電池消耗が早くなります。機器からは、1m以上離して使用して下さい。
 - ・警報機の連続警報を発した際にアンテナUNITからの警報報知信号送信は、警報開始直後から約40秒間送信されます。この間、リモコンによる警報機のリセット及びエンジンスタートは出来ません。
 - ・警報報知表示を途中で止める場合は、STOPスイッチを押して下さい。リモコンの警報報知表示を中断した場合、その後、約6秒間はリモコンの間欠受信が行われません。(6秒後に間欠受信を再開します。)
 - ・リモコンによるアイドリング中は本機能は使用できません。

警報報知信号の受信可能距離について

リモコンの警報報知信号受信可能距離は、エンジンSTART/STOP操作の電波到達距離に比べ、若干短くなります。警報報知信号を受信可能な距離であるかどうかは、下記の方法で確認することが出来ます。

リモコンのSTARTスイッチとSTOPスイッチを同時に押します。



- 注意**
- ・リモコンのロッドアンテナを必ず引き出した状態で使用して下さい。周囲の環境や電波障害により、受信距離は短くなることがあります。

振動センサー（大振動検知の場合）または電圧パルスセンサーによる連続警報（26秒）が、周囲の環境もしくはバッテリー異常により発生してしまった場合、何度も続けて警報してしまう可能性があります。そこで、60分以内に3回発生した場合、以後60分間は連続警報をキャンセルします。

●振動センサーの場合

60分以内に3回、振動センサーが大きな振動を感知して連続警報を発した場合、車体への異常（ボディ傷つけ、ガラス割られる等）によるもの以外の何らかの原因により振動センサーが働いているものと判断し、以後60分間は大きい振動を感知しても威嚇警報モード（1秒）にて警報し、連続警報モードでは警報しません。この時、60分経過すれば、自動的に復帰します。また誤動作軽減モード中に警報機をリセットすると、誤動作軽減モードもリセットされます。

●電圧パルスセンサーの場合

60分以内に3回、電圧パルスセンサーにより連続警報を発した場合、ルームランプ点灯以外の何らかの原因による電圧変動が起っていると判断し、以後60分間は電圧パルスセンサーは感知しません。この時、60分経過すれば、自動的に電圧パルスセンサーは再起動します。また、誤動作軽減モード中に警報機をリセットすると、誤動作軽減モードもリセットされます。

半ドア警告機能について

*ドアスイッチセンサーを設定している場合のみ使用できます。
車両が半ドアの状態では警報機をセット操作すると、ブザーとセキュリティインジケータで半ドア状態であることをお知らせします。

●半ドア警告表示

ブザー	“ヒュンヒュンヒュン”（警告音3回）
セキュリティインジケータ	1秒間点灯

この時警報機はセットされませんので、ドアを閉め直した後、再度セットして下さい。

アクティブセンサー判別機能について

複数のセンサーがほぼ同時に異常を感知した場合、最も早く感知したセンサーよりも、最も危険度の高い異常を感知するセンサーの入力を優先して、その入力に対する警報を発します。

【例】ドアがこじ開けられた際に、小振動と電圧変動をほぼ同時に感知した場合、電圧変動を優先してそれに対する連続警報を発します。

メモ センサーの優先順位は、①ドアスイッチ入力センサー ②電圧パルスセンサー ③振動センサー（大振動検知）④振動センサー（小振動検知）の順に設定されています。

警報履歴確認機能について

センサーが異常を感知して警報が行われた場合、どんな異常を感知したのか、リセットした時にブザー音とセキュリティインジケータの点滅回数でお知らせします。

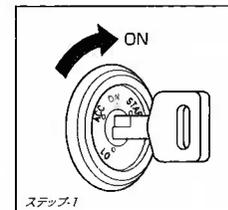
ブザー音	点滅回数	異常
ヒュン	1回点滅	何も感知しなかった、あるいは小振動を感知して威嚇警報した場合
ヒュンヒュン	2回点滅	大振動を感知して連続警報した場合
ヒュンヒュンヒュン	3回点滅	ドア開（電圧変動またはドアスイッチ）を感知して警報した場合

リモコンによるエンジン始動の自動停止時間を「10分/20分/30分」のいずれかに変更する事が出来ます。お取り付け時（初期状態）のアイドリング時間は「20分」です。

ステップ1

キーをONの位置にします。

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。以降の操作が出来ません。



ステップ1

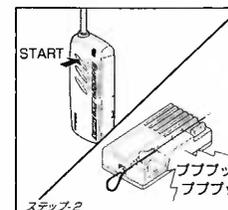
ステップ2

10秒以内にリモコンのSTARTスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブブブッ ブブブッ…」の3連音が鳴ります。この時、リモコンは以下の表示をします。

リモコンの送信表示 【音「ビビッ」、LED緑色1回点灯】
リモコンのアンサー表示 【音「ビビビッ」、LED橙色3回点滅】

メモ 10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。10秒以上経過した場合のアンサー表示は【音「ブーブー」、LED橙色2秒点灯】となります。



ステップ2

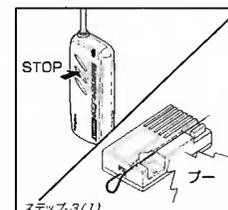
ステップ3

30秒以内に次の操作を行います。

リモコンのSTARTスイッチを押してから30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ピーピー」という警告音がして、その後の操作が無効になります。キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。

(1)「10分」に設定する場合

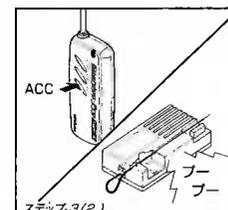
リモコンのSTOPスイッチを押します。
エンジンスターター本体から「ブー」という音がして、10分が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ3(1)

(2)「20分」に設定する場合

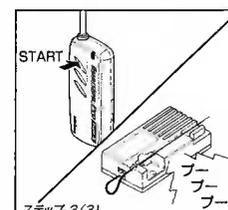
リモコンのACCスイッチを押します。
エンジンスターター本体から「ブーブー」という音がして、20分が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ3(2)

(3)「30分」に設定する場合

リモコンのSTARTスイッチを押します。
エンジンスターター本体から「ブーブー」という音がして、30分が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ3(3)

ステップ4

キーをOFFにします。

OK!

以上でアイドリング時間の設定は終了です。

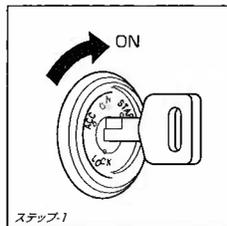
メモ 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス（アース線）を外した場合には、初期設定（20分）に戻ります。

ターボタイマーの設定/解除方法

お取り付け時(初期状態)はターボタイマーの設定が解除されています。

ステップ1 キーをONの位置にします。

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。



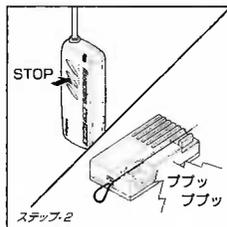
ステップ1

ステップ2 10秒以内にリモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブブッ ブブッ…」の2連音が鳴ります。
この時、リモコンは以下の表示をします。

リモコンの送信表示 【音「ピーッ」、LED赤色1回点灯】
リモコンのアンサー表示 【音「ピーッ・ピーッ」、LED赤色2秒点灯】

メモ 10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。
キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。
10秒以上経過した場合のアンサー表示は、【音「ブーブー」、LED
橙色2秒点灯】となります。



ステップ2

ステップ3 30秒以内に次の操作を行います。

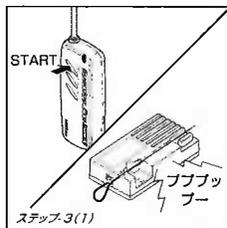
リモコンのSTOPスイッチを押してから30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ピーピー」という警告音がして、その後の操作が無効になります。キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。

(1)ターボタイマーを設定する場合

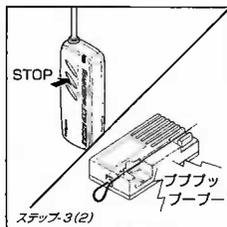
リモコンのSTARTスイッチを押します。
エンジンスターター本体から「ブブブブブー」という音がして、ターボタイマーが設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

(2)ターボタイマーを解除する場合

リモコンのSTOPスイッチを押します。
エンジンスターター本体から「ブブブブブー」という音がして、ターボタイマーの設定が解除されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ3(1)



ステップ3(2)

ステップ4 キーをOFFにします。

OK! 以上でターボタイマーの設定/解除は終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。

ターボタイマーの使用方法

本機のターボタイマー機能は、フルオート方式を採用しています。
アフターアイドルの時間は、車の走行状況に合わせて自動的に設定されます。

ステップ1 キー、またはリモコンで、エンジンを始動させます。

ステップ2 走行します。

少なくとも30秒間は走行状態にしないと、ターボタイマーは動きません。

ステップ3 走行終了後、シフトレバーをPレンジにしてからキーをOFFにします。

本体から「ブブッブッ」というカウントダウン音がして、ターボタイマーが作動を開始します。

警告 周囲の安全を確認の上、パーキングブレーキをしっかりとかけて下さい。
シフトレバーは、必ずPレンジにして下さい。重大な事故につながる恐れがあります。

- 車によってはターボタイマー作動中にキーが抜けません場合があります。
このような場合は、別売の「日産キーロックアダプター」をご使用下さい。
- 車によっては正常にターボタイマーが作動しない場合があります。
このような場合は、別売の「ターボタイマーストール防止アダプター」をご使用下さい。
- ターボタイマーのアフターアイドル時間は10秒~2分50秒の範囲で自動的に設定されます。

リモコンでターボタイマー停止

リモコンのSTOPスイッチを押す事により、ターボタイマー作動中のエンジンを停止させる事が出来ます。

スリープ機能について

車を使用しない状態が15日間以上続くと、バッテリーの消耗を抑えるスリープ機能が働きます。
スリープ機能が働くと、リモコン操作(エンジン始動/停止、警報機セット/リセット)は出来ません。
スリープ機能の解除は、アンテナUNITのパワースイッチを一度切って入れなおすか、キーを使ってエンジンを始動させることで解除出来ます。
また、警報機作動中にスリープ機能が働いた場合、警報機のリセットはキーで行うか、スリープ機能を解除してからリモコンで行って下さい。

本機の電源を切る時は

車を車検・整備に出す時は安全のため、アンテナUNITのパワースイッチを切ってください。メモリー機能により、次回お使いになる際も再度オートマチック車の登録やターボタイマーの設定等は必要ありません。アンテナUNITのパワースイッチをONにするだけでスイッチを切る前と同じ状態で使用出来ます。

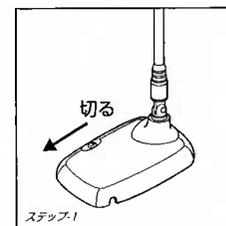
メモ 車種別専用ハーネスを外したり、整備の際に車のバッテリー端子を外した場合は、再度オートマチック車の登録からやり直す必要があります。

安全センサーケーブル (茶コード) をドアスイッチへ配線する事により、リモコン始動でのアイドリング中に、ドアを開けるとエンジンを停止させる事が出来ます。
 警報機にてドアスイッチ入力センサー (→23~24ページ「ドアスイッチ入力センサーの追加設定」) を設定している場合と設定していない場合とで配線方法が異なります。ドアスイッチ入力センサーの設定状況に応じて配線して下さい。

警報機にてドアスイッチ入力センサーを設定している場合の配線方法

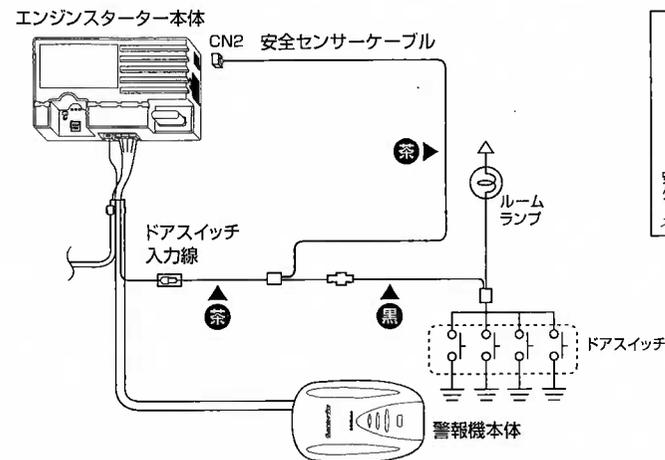
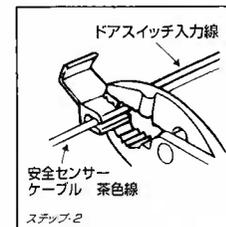
ステップ1 アンテナUNITのプアスイッチを切ります。

既に付属の安全センサーケーブルが本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。



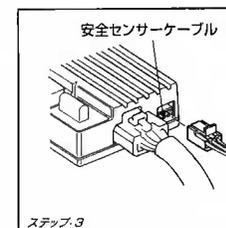
ステップ2 安全センサーケーブルの茶色線を接続します。

安全センサーケーブルの茶色線先端のギボシ端子部をニッパ等でカットし、警報機ハーネスのドアスイッチ入力線に接続している延長線の茶コード部に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)



注意 接触不良が起こらない様に確実に取り付けて下さい。ドアスイッチ検出がうまく行われない場合があります。

ステップ3 安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部(CN2)に接続します。



OK! 以上でドアスイッチ配線は終了です。

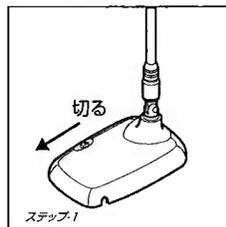
プアスイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けた時にエンジンが停止する事を確認して下さい。

注意 ドアを開ける前に必ず警報機をリセットして下さい。リセットせずにドアを開けると、ドアスイッチ入力センサーにより警報します。

警報機にてドアスイッチ入力センサーを設定していない場合の配線方法

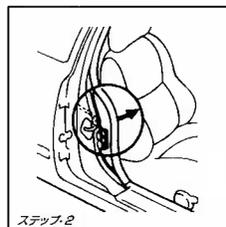
ステップ1 アンテナUNITのプアスイッチを切ります。

既に付属の安全センサーケーブルがエンジンスターター本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。



ステップ2 車の運転席側ドアスイッチ線を探します。

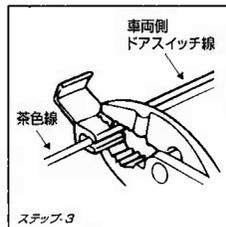
ドアを開けた時は0V、閉めた時に12Vとなる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)



メモ 半ドア警告灯および、ルームランプの点灯をさせるためのスイッチです。

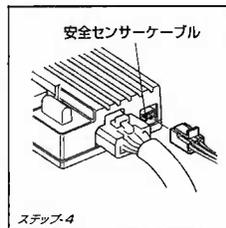
ステップ3 安全センサーケーブルの茶色線を接続します。

安全センサーケーブルの茶色線先端のギボシ端子部をニッパ等でカットし、ステップ2で見つけた線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)



注意 接触不良が起こらない様に確実に取り付けて下さい。ドアスイッチ検出がうまく行われない場合があります。

ステップ4 安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部(CN2)に接続します。



OK! 以上でドアスイッチ配線は終了です。

プアスイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けた時にエンジンが停止する事を確認して下さい。

ボンネットスイッチ(別売)を取り付ける場合(エンジンスターター安全機能)

ボンネットスイッチ(別売)の取り付けを行うことにより、ボンネットが開いている時のリモコンでのエンジン始動が出来なくなり、エンジンルーム内での各種作業中の安全を確保出来ます。出来るだけボンネットスイッチの取り付けを行って下さい。取り付けに関しては、ボンネットスイッチに付属の取扱説明書をよくお読み下さい。

ボンネットスイッチ(別売)取り付けとドアスイッチ配線の両方を行う場合(エンジンスターター安全機能)

ボンネットスイッチ(別売)取り付けとドアスイッチ配線の両方を行う事で、ボンネットが開いたり、ドアが開いたりしている時は、エンジンが動作しないよう安全確保が出来るようになります。警報機にてドアスイッチ入力センサー(→23~24ページ「ドアスイッチ入力センサーの追加設定」)を設定している場合、配線方法が異なります。ドアスイッチ入力センサーの設定状況に応じて配線して下さい。

注意 安全センサーケーブルの茶色線は、ボンネットスイッチとドアスイッチの検出を併用するようになっております。両方を配線する場合には別途エレクトロタップ*を1個ご用意頂く事になりますので、あらかじめお買い求め下さい。
*【推奨品:自動車用低電圧線(AV線)0.5mm²サイズ適応品】

警報機にてドアスイッチ入力センサーを設定していない場合の配線方法

ステップ1 車の運転席側ドアスイッチ配線をして下さい。

36ページ「運転席側ドアスイッチ配線を行う場合」の作業をステップ3まで行った後、以下の作業を行って下さい。

ステップ2 ボンネットスイッチを取り付けます。

ボンネットスイッチ付属の取扱説明書をよく読み、エンジンルーム内のボンネットスイッチ設置・取り付け作業まで行って下さい。

ステップ3 ボンネットスイッチの茶色線を接続します。

ボンネットスイッチの茶色線をグロメット等を利用してエンジンルーム内から車室内へ引き込み、先端のギボシ端子部をニッパ等でカットします。既にドアスイッチ配線をした安全センサーケーブルの茶色線にご用意頂いたエレクトロタップ等で接続します。

注意 接触不良が起きない様に確実に取り付けして下さい。ボンネットスイッチ検出がうまく行われない場合があります。

ステップ4 安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部(CN2)に接続します。

ステップ2で途中となっていたボンネットスイッチの取り付け作業も完了させて下さい。

OK! 以上でボンネットスイッチとドアスイッチ配線作業は終了です。

パワースイッチをONにして、リモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けた時及びボンネットを開けた時にエンジンが停止する事を確認して下さい。

注意 ボンネットスイッチとドアスイッチ配線を行った場合、ボンネットを開けると、半ドア警告灯及びルームランプが点灯するようになります。これは本機が車側の安全検出を行う回路により点灯するものであり、異常ではありません。

ボンネットスイッチ(別売)取り付けとドアスイッチ配線の両方を行う場合(エンジンスターター安全機能)

警報機にてドアスイッチ入力センサーを設定している場合の配線方法

ステップ1 車の運転席側ドアスイッチ配線をして下さい。

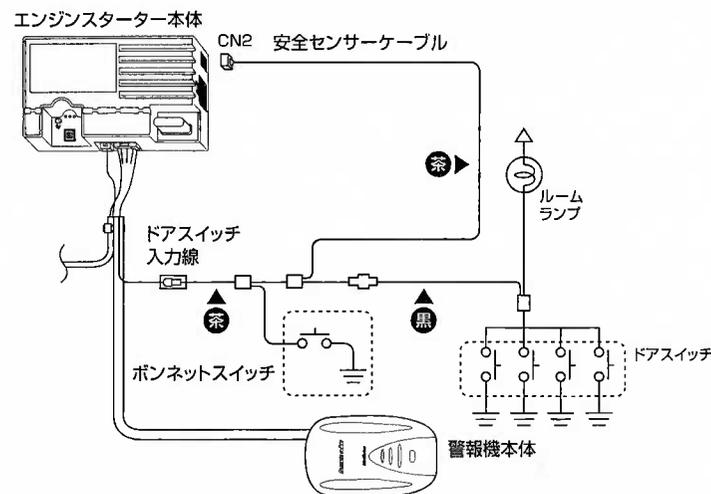
37ページ「運転席側ドアスイッチ配線を行う場合」の作業をステップ2まで行った後、以下の作業を行って下さい。

ステップ2 ボンネットスイッチを取り付けます。

ボンネットスイッチ付属の取扱説明書をよく読み、エンジンルーム内のボンネットスイッチ設置・取り付け作業まで行って下さい。

ステップ3 ボンネットスイッチの茶色線を接続します。

ボンネットスイッチの茶色線をグロメット等を利用してエンジンルーム内から車室内へ引き込み、先端のギボシ端子部をニッパ等でカットします。警報機ハーネスのドアスイッチ入力線に接続している延長線の茶コード部にご用意頂いたエレクトロタップ等で接続します。



注意 接触不良が起きない様に確実に取り付けして下さい。ボンネットスイッチ検出がうまく行われない場合があります。

ステップ4 安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部(CN2)に接続します。

ステップ2で途中となっていたボンネットスイッチの取り付け作業も完了させて下さい。

OK! 以上でボンネットスイッチとドアスイッチ配線作業は終了です。

パワースイッチをONにして、リモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けた時およびボンネットを開けた時にエンジンが停止する事を確認して下さい。

注意 ボンネットを開ける前に必ず警報機をリセットして下さい。リセットせずにボンネットを開けると、ドアスイッチ入力センサーにより警報します。

オプション

「リモコンエンジンスタート適応車種一覧表」をよくご覧になり、必要に応じてオプション(別売)をご使用下さい。

- **ボンネットスイッチ**
車のボンネットが開いている時に、リモコンでのエンジン始動を出来なくする安全装置です。
- **ホンダレジェンド用DPSアダプター**
レジェンド(型式KA7~9のDPS装着車)ドライビングポジションシステムのチルトステアリングのAUTO機能を作動させることが出来るようになります。
- **日産キーロックアダプター**
一部の車種でターボタイマーの作動中、キーが抜けなくなるのを防止します。
- **ターボタイマーストール防止アダプター**
一部の車種でキーをOFFにし、ターボタイマーを作動させる際、インジケータランプが一瞬点灯または点灯したままとなったり、エンジンがストール(停止)してしまうのを防止します。
- **キーレスアダプター(ミツバG-System)**
本機のリモコン操作でドアのLOCK/UNLOCKが行えるようになります。
一部の車種ではモーターキット(別売)が必要になります。必ず事前に「リモコンエンジンスタート適応車種一覧表」を確認して下さい。

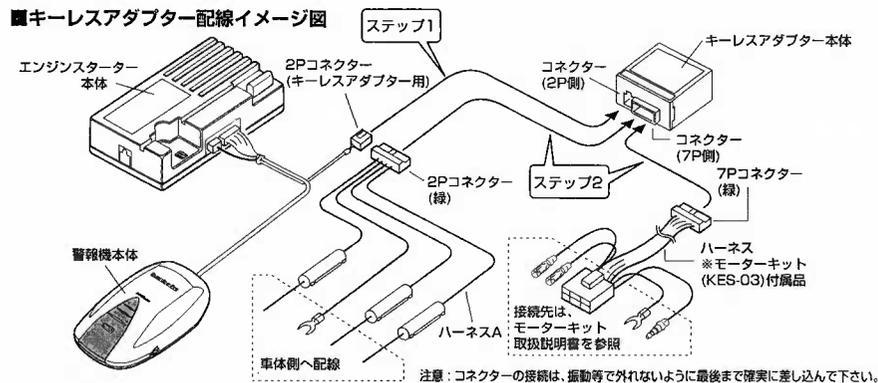
キーレスアダプター(別売)の接続について

ステップ1 警報機本体から出ているハーネスの2Pコネクター(キーレスアダプター用)をキーレスアダプター本体のコネクター部(2P側)へ接続します。

注意 この時、キーレスアダプター(別売)に付属している「ハーネスB」は使用しません。

ステップ2 キーレスアダプターの取扱説明書に従って、キーレスアダプター本体の7Pコネクター(緑)側の配線を行います。

注意 車種によっては、別途、「モーターキット」を必要とする場合があります。あらかじめ「リモコンエンジンスタート適応車種一覧表」をよく確認してから配線を行って下さい。



ドアLOCK機能の使用方法

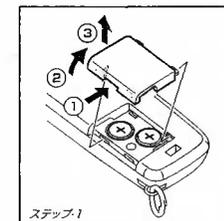
- **ドアLOCK方法**
リモコンにより警報機をセットすると、それと連動してドアがLOCKされます。
- **ドアUNLOCK方法**
リモコンにより警報機をリセットすると、それと連動してドアがUNLOCKされます。

電池の交換方法

リモコンは新品の電池で約1000回*以上使用出来るように設計されております。使用中、電波到達距離が短くなってきたら電池を交換して下さい。また、製品に添付されている電池はテスト用のものですので、1000回以内に電池交換が必要になる場合があります。
*使用温度によっては若干少なくなります。

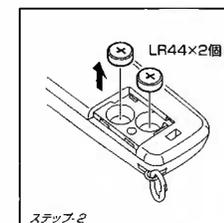
ステップ1 電池蓋を外します。
マイナスドライバーの先端等で電池蓋の端を引き上げるようにして外して下さい。

注意 外す際に、マイナスドライバーの先端等でケガをしないよう、ご注意ください。



ステップ2 電池を交換します。(アルカリボタン電池 LR44×2個)
電池のプラス、マイナスの向きに注意して交換して下さい。
電池のプラス面が蓋側となります。

注意 電池を交換の際は、2個とも新品の電池に交換して下さい。



ステップ3 電池蓋を閉じます。
電池のプラス、マイナスの向きが合っていない場合は、電池蓋がうまく閉じませんので、ご注意ください。

ステップ4 交換後、リモコンの動作確認を行って下さい。

このような時	チェックして下さい	処 置
リモコンのスイッチを押しても送信表示しない。	スイッチを押す時間が短くありませんか?	0.5秒以上スイッチを押して下さい。
	リモコンの電池は消耗していませんか?	電池を新品に交換して下さい。
リモコンのスイッチを押してもエンジンスターター本体が作動しない。	車のキーがONになっていませんか?	キーを抜いて下さい。
	車のバッテリー端子が外れていませんか?	端子を接続し「オートマチック車の登録」を行って下さい。
	15日以上エンジンの始動を行わない状態でしたか?	スリープモードになっています。パワースイッチを一旦切って入れ直すか、キー操作でエンジンを始動させて下さい。
	車のバッテリーは弱っていませんか?	バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
	ドアが開いていませんか? (運転席のドアスイッチ配線を行った場合。)	ドアを閉めて下さい。
	ボンネットが開いていませんか? (別売ボンネットスイッチを取り付けた場合。)	ボンネットを閉めて下さい。
	ドアスイッチへの配線(任意)が間違っていますか?	正しく配線して下さい。
	フットブレーキへの配線(必要時)が間違っていますか?	正しく配線して下さい。
エンジンスターター本体から「ブーブー、ブーブー…」音が鳴っていて、リモコンのスイッチを押しても、まったく作動しない。	バッテリー端子を外したり、バッテリー交換を行いましたか? ヒューズ交換、専用ハーネスとのカブラー脱着及び黒色アース線の再接続を行いましたか?	オートマチック車の登録情報が消去されていません。再度「オートマチック車の登録」を行って下さい。
リモコンのスタートスイッチを押すとメーターパネルは点灯するが始動しない。	車のシフトレバーがPレンジ以外に入っていますか?	シフトレバーをPレンジに入れて下さい。
	車のバッテリーは弱っていませんか?	バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
リモコンのスタートスイッチを押すと始動動作を行うが、エンジンがかからない。	オルタネーター(L端子)配線を行いましたか?	オルタネーター(L端子)配線を行って下さい。(詳しくはP.13を参照してください。)
	車のバッテリーは弱っていませんか?	バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
アンテナUNITのパワースイッチをONにしても本体の電源が入らない。	エンジンスターター本体のヒューズが切れていませんか?	ヒューズを交換して下さい。
	専用ハーネスのカブラーが外れていませんか?	カブラーを確実に差し込んで下さい。
	専用ハーネスの黒色アース線が外れていませんか?	黒色アース線を確実に接続して下さい。

このような時	チェックして下さい	処 置
電波到達距離が短くなった。	リモコンの電池は消耗していませんか?	電池を新品に交換して下さい。
	リモコンのアンテナは伸ばしてありますか?	リモコンのアンテナを伸ばして下さい。
	リモコンのアンテナに体の一部が触れていませんか?	操作の際はアンテナに触れないようにして下さい。
ターボタイマーが作動しない。	ターボタイマーの設定を行っていますか?	ターボタイマーの設定をして下さい。
	車を30秒以上走行させましたか?	30秒以上走行して下さい。
	フットブレーキへの配線(必要時)を行っており、フットブレーキを踏んだままキーをOFFにしていますか?	フットブレーキを踏まずにキーをOFFにして下さい。
	車のシフトレバーがPレンジ以外に入っていますか?	シフトレバーをPレンジに入れて下さい。
	ボンネットが開いていませんか? (別売ボンネットスイッチを取り付けた場合。)	ボンネットを閉めて下さい。
	リモコンのSTARTスイッチを押してもエンジンが始動せず、警告音「ビー・ビー…」が鳴り続ける。	車のシフトレバーがPレンジ以外に入っていますか? 車のキーがACCになっていませんか? 専用ハーネスの品番は正しいですか?
リモコンの電池がすぐに消耗してしまう。	リモコンの監視モードスイッチが常にONになっていませんか?	監視モードを使用しない時は、スイッチをOFFにしておいて下さい。
	リモコンの監視モードスイッチがONの時に、リモコンをOA機器(パソコンやFAX)の近くで使用していませんか?	監視モードを使用する場合、リモコンはOA機器からなるべく離して下さい。(1メートル以上)
リモコンのACCスイッチを押していないのに警報機が勝手にセットする。	キーレスアダプター用2Pコネクターの配線処理は正しく行われていますか?	①エンジン始動直後にセットしてしまう場合コネクターの接続ミスが考えられます。キーレスアダプター用2Pコネクターがエンジンスターター本体へ接続されていないか確認して下さい。 ②エンジン始動に関係なくセットしてしまう場合コネクターの絶縁処理が不十分である可能性が考えられます。キーレスアダプター用2Pコネクターがきちんと絶縁されているか確認して下さい。
	エンジンスターター本体と警報機がしっかり接続されていますか?	エンジンスターター本体のCN3コネクター口に5Pコネクターを確実に差し込んで下さい。
リモコンのACCスイッチで警報機がセットもリセットも出来ない。	15日以上エンジンの始動を行わない状態でしたか?	スリープモードになっています。パワースイッチを一旦切って入れ直してからリモコン操作をして下さい。

このような時	チェックして下さい	処 置
リモコンのACCスイッチで警報機がリセット出来ない。	ACC操作のアンサー表示がキャリアセンスによるNGとなっていないですか? NG表示 [音「ブブブッ」、LED橙色4回点滅]	アンテナUNITが警報機出力を送信中です。送信終了を待ってから、再度リセット操作して下さい。
	15日以上エンジンの始動を行わない状態でしたか?	エンジンスターターがスリープモードのときはリモコン操作が出来ません。
勝手に警報する。	警報時間はどの位ですか? どのセンサーにより警報していますか? (リセットしてセキュリティインジケータの点滅回数で判断して下さい。)	①1秒位の場合 (小振動を感知している) ・警報機本体をしっかりと固定して下さい。 ・下記のような状況では、警報する場合があります。 1. 強風、豪雨、雷雨、台風等の気象条件の場合。 2. 地震が起きた場合。 3. 線路付近、幹線道路沿い、工事現場付近、飛行場付近等、振動の発生する場所。 ②26秒以上の場合 (a) 振動センサーにより警報している場合 ・警報機本体をしっかりと固定して下さい。 ・感度を下げして下さい。 (b) 電圧バルスセンサーにより警報している場合 ・車のバッテリーが弱っていないか確認して下さい。 ・警報機とエンジンスターター、エンジンスターターと車両との配線及び接続を確認して下さい。 ・他の電装品が動作していないか確認して下さい。 (c) ドアスイッチセンサーにより警報している場合 ・ドアスイッチ入力線の配線を確認して下さい。
振動を与えてもまったく警報しない。	警報機本体はしっかりと固定されていますか? 警報機は監視モードになっていますか?	警報機本体をしっかりと固定して下さい。 (振動が伝わりやすい所に設置して下さい。) セキュリティインジケータが3秒に1回の点滅をしているとき以外は、振動センサーは感知しません。
強い振動を与えても連続警報しない。	警報機本体はしっかりと固定されていますか? 警報機が誤動作軽減モードに入っていないですか?	警報機本体をしっかりと固定して下さい。 (振動が伝わりやすい所に設置して下さい。) 一旦リセットした後、再度確認して下さい。
ルームランプ点灯しても連続警報しない。	エンジンスターター本体と警報機がしっかりと接続されていますか? 電圧バルスセンサーはONに設定されていますか? 警報機本体の近くに無線機等の電装品はありませんか? 警報機は監視モードになっていますか?	エンジンスターター本体のCN3コネクター口に5Pコネクターを確実に差し込んで下さい。 モード切替ボタンで確認して下さい。 (20~21ページ「電圧バルスセンサーのON/OFF切替方法」参照。) 電圧バルスセンサーをOFFにして、ドアスイッチセンサーによるドア開検知して下さい。 セキュリティインジケータが3秒に1回の点滅をしているとき以外は、電圧バルスセンサーは感知しません。
ドアを開けても連続警報しない。	ドアスイッチへの配線は確実にされていますか?	正しく配線してください。 *運転席側ドアスイッチのみに配線してある場合、他のドアには反応しない場合があります。
連続警報してもリモコンが報知表示しない。	リモコンのアンテナは伸ばしてありますか? リモコンのアンテナに体の一部が触れていませんか? リモコンが報知信号を受信可能な距離にありますか? リモコンの監視モードスイッチがONになっていますか? エンジンスターターと警報機の接続は確実にされていますか?	リモコンのアンテナを伸ばして下さい。 アンテナに触れないようにして下さい。 受信可能な距離にあるかどうか確認して下さい。 (確認方法は、エンジンスターターの取扱説明書を参照して下さい。) 監視モードスイッチをONにして下さい。 CN4コネクターの接続を確認して下さい。

リモコンについて

(各種機能設定 [ターボタイマー設定、アイドリング時間設定等] を除く。)

●送信操作時一覧表

スイッチ操作	ブザー音	LED表示	意 味
START	ビッ	緑色1回点灯	エンジンの始動
STOP	ビー	赤色1回点灯	エンジンの停止
ACC	ビーッ・ビッ	緑色ゆっくり2回点滅	警報機のセット
	ビビビビ	赤色4回点滅	警報機のリセット
START+STOP	ビーッ・ビッ	緑色1回点灯	監視モード時の間欠受信可能確認

●アンサーバック受信時一覧表

スイッチ操作	ブザー音	LED表示	意 味
START時	ビビ	緑色1回点灯	エンジンの始動を開始します。
アンサー	ビッ	緑色2回点滅	エンジンの始動中(リトライ含む)です。
	ビビビビ	緑色2秒点灯	アイドリングを行っています。(エンジンスターターorターボタイマー)
STOP時	ビー	赤色1回点灯	エンジンを停止します。
アンサー	ビーッ・ビー	赤色2秒点灯	エンジンは既に停止中です。
ACC時	ビーッ・ビッ	緑色ゆっくり2回点滅	警報機をセットします。
アンサー	ビビビビ	赤色4回点滅	警報機をリセットします。
START+STOP時	ビーッ・ビッ	緑色1回点灯	監視モード時の間欠受信が可能です。
アンサー			
エラーを表す	ブー	橙色2秒点灯	アンテナUNITからのアンサーバック信号が受け取れません。
アンサー	ブー	なし	アンテナUNITまたは本体に異常があります。
	ブブブッ	橙色4回点滅	キャリアセンス確認エラーのため送信出来ません。(注意2参照)
	ビビビ	橙色3回点滅	安全機能が動作中です。 (ドアスイッチ、ボンネットスイッチ、フットブレーキ検出)

〈注意〉

1. イグニッションキーをONにしてから10秒を経過すると、車側のアンテナUNIT (無線の送受信部) は動作を停止します。
2. 「キャリアセンス」とは電波法で定められており、他の無線機が同一周波数(429MHz)電波を送信(占有)している間は電波を送出する事が出来ません。なお、通信時間には制限がありますので、暫くすると送信が出来るようになります。
3. ACCスイッチ操作は別売オプション品を取り付けた時にも使用します。

エンジンスターター本体について

(オートマチック車登録、キー始動学習を除く)

ブザー音	意 味
ブブブッ	本体の電源が入った場合。
ブッ	リモコンによるエンジン始動を自動検出した場合。オルタネータ(L端子)配線が正しい場合。
ブッ	リモコンでエンジンが始動した場合。
ブッ ~ ブー	リモコンでエンジン駆動中。 リモコンでエンジン始動直後から数秒間隔で鳴り始め、残り時間に連動して短くなります。 自動停止直前(1分前)は連続音になります。
ブブッ	スリープから復帰した場合。
ビービー	リモコンでエンジンが始動しない場合。
ビービービー	リモコンでエンジン駆動中にエンストした場合。
ビー・ビー…… (繰り返し)	車との相性が悪い(悪くなった)場合。 *ユーザーサービス係へお問い合わせ下さい。 *警告音はイグニッションキーをONの位置にすれば停止します。

エンジンスターター本体のモードスイッチについて

(商品出荷時は全てOFFとなっております。)

スイッチ番号	モードメニュー	OFF	O N
1	シフト検出	自動検出	キャンセル(通常使用しません。) *フットブレーキへの配線が必要です。(16ページの「フットブレーキ検出方式への変更」を参照。)
2	始動検出	自動検出	オルタネータのL端子線の変化のみで、エンジンの始動状態を検出する。 *L端子線への配線が必要です。(13ページの「L端子検出方式への変更」を参照。)

警報機について

●操作時及び定常時の動作仕様

警報機動作仕様						リモコン	
動作モード	ブザー	セキュリティインジケータ	振動センサー	電圧パルスセンサー	ドアスイッチ入力センサー	ブザー音	LED表示
停止時	無音	消灯	停止	停止	停止	無音	消灯
セット操作時	"ヒュンヒュン"	2回点滅	停止	停止	停止	"ビー・ビツ"	緑色ゆっくり 2回点滅
半ドア警告	"ヒュンヒュン ヒュン"	1秒点灯	停止	停止	停止	無音	消灯
スタンバイモード	無音	0.5秒に1回点滅 (繰返し)	停止	停止	感知	無音	消灯
監視モード	無音	3秒に1回点滅 (繰返し)	感知	(注1) 感知	(注1) 感知	無音	消灯
監視モード (インストール時)	無音	1秒に1回点滅 (繰返し)	停止	停止	(注2) 感知	無音	消灯
リセット操作時	"ヒュン"等 *32ページ「警報履歴 確認機能について」	1回点滅等 *32ページ「警報履歴 確認機能について」	停止	停止	停止	"ビビビビツ"	赤色4回点滅

(注1:電圧パルスセンサーとドアスイッチセンサーを併用する必要はありません。
(注2:警報感知機能は働きます。)

●軽い振動を感知した場合の動作仕様

警報機動作仕様				リモコン		
警報モード	警報時間	ブザー	セキュリティインジケータ	表示時間	ブザー音	LED表示
威嚇警報	1秒	"ヒュン"	0.5秒に3回点滅 ×2		報知表示せず	

●強い振動またはルームランプ点灯(電圧パルスセンサー)を感知した場合の動作仕様

警報機動作仕様				リモコン		
警報モード	警報時間	ブザー	セキュリティインジケータ	表示時間	ブザー音	LED表示
連続警報	26秒	"ヒュヒュヒュン"	0.5秒に3回点滅 (繰返し)	2分*	"ビーッビーッ"	緑色、赤色 交互点滅

*表示中断した場合、その時の警報についての報知表示は2度と行わない。

●ドア開(ドアスイッチ入力センサー)を感知した場合の動作仕様

警報機動作仕様				リモコン		
警報モード	警報時間	ブザー	セキュリティインジケータ	表示時間	ブザー音	LED表示
連続警報	ドア開いてから 閉められた後 26秒後まで	"ヒュヒュヒュン"	0.5秒に3回点滅 (繰返し)	2分*	"ビーッビーッ"	緑色、赤色 交互点滅

*表示中断した場合、その時の警報についての報知表示は2度と行わない。
ただし、警報時間が連続で80秒を超えた場合は、再度表示する。

●リモコン

型式名 : HX-06M
 技術基準 : ARIB STD-T67 特定小電力無線局
 テレメータ・テレコントロール・データ伝送用無線設備
 使用周波数 : 429MHz
 通信方式 : 単信方式
 送信出力 : 10mW以下
 スイッチ : START/STOP/ACC
 送信確認方式 : ブザー、LED
 送信時間 : 約1秒
 送信休止時間 : 2秒以上
 アンテナ : ロッドアンテナ
 動作温度範囲 : -20℃~+60℃
 定格電圧 : DC3V
 使用電池 : アルカリボタン電池 LR44×2個
 重量 : 41g (電池含む)
 外観寸法 : 84mm×36.5mm×16mm
 <H×W×D> *突起部は除く

●アンテナUNIT/エンジンスターター本体

型式名 : MX-06M(アンテナUNIT)/BX-06M(エンジンスターター本体)
 技術基準 : ARIB STD-T67 特定小電力無線局
 テレメータ・テレコントロール・データ伝送用無線設備
 使用周波数 : 429MHz
 通信方式 : 単信方式
 送信出力 : 10mW以下
 送信時間 : 40秒未満
 送信休止時間 : 2秒以上
 アンテナ : 可倒式ラバーアンテナ
 動作温度範囲 : -20℃~+70℃
 電源電圧 : DC 8.5V~16V
 パワー系制御電流 : 最大電流25A・突入電流80A
 消費電流 : 通常待機時 平均 10mA以下
 スリープモード時 850μA以下
 重量 : 88g (アンテナUNIT)/135g (エンジンスターター本体)
 外観寸法 : 163mm×45mm×75mm (アンテナUNIT)
 34mm×120mm×70mm (エンジンスターター本体)
 <H×W×D>

●警報機本体

電源電圧 : DC9~16V
 消費電流 : 監視モード時 平均 4mA以下
 警報モード時 MAX225mA以下
 動作温度範囲 : -20℃~+80℃
 警報音圧 : 130dB
 重量 : 179g
 外観寸法 : 114mm×70mm×30mm (ハーネス除く)
 <H×W×D>